

鳥羽商船高等専門学校				一般教育				開講年度				平成28年度 (2016年度)															
学科到達目標																											
1. 健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。 2. 専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。 3. 多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	必修	国語総合 1	0108	履修単位	2	2		2															豊田 尚子				
一般	必修	歴史 1	0111	履修単位	2	2		2																中平 希			
一般	必修	基礎数学 1	0114	履修単位	2	4																		佐波 学			
一般	必修	基礎数学 2	0115	履修単位	2			4																佐波 学			
一般	必修	基礎数学 3	0116	履修単位	2	2		2																佐波 学			
一般	必修	物理 1	0122	履修単位	2	2		2																富澤 明			
一般	必修	保健体育 1	0126	履修単位	2	2		2																重永 貴博, 山田 英生			
一般	必修	書道	0129	履修単位	2	2		2																世古口 祐子			
一般	必修	美術	0130	履修単位	2	2		2																中村 利郎			
一般	必修	音楽	0131	履修単位	2	2		2																廣 恵			
一般	必修	English Communication 1	0132	履修単位	2	4																		鏡 ますみ			
一般	必修	English Communication 2	0133	履修単位	2			4																鏡 ますみ			
一般	必修	English Expression 1	0134	履修単位	2	2		2																橋爪 仙彦			
一般	必修	一般基礎教育 1	0140	履修単位	2	2		2																富澤 明			
一般	必修	国語総合 2	0097	履修単位	2					2	2													勝田 好洋			
一般	必修	歴史 2	0098	履修単位	2					2	2													中平 希			
一般	必修	微分積分 1	0099	履修単位	2					4														佐波 学			
一般	必修	微分積分 2	0100	履修単位	2						4													佐波 学			
一般	必修	代数・幾何 1	0101	履修単位	2					2	2													佐波 学			
一般	必修	物理 2	0102	履修単位	2					2	2													富澤 明			
一般	必修	理科総合	0103	履修単位	2					2	2													廣垣 豊			
一般	必修	保健体育 2	0104	履修単位	2					2	2													重永 貴博, 山田 英生			
一般	必修	English Communication 3	0105	履修単位	2					4														鏡 ますみ			
一般	必修	English Communication 4	0106	履修単位	2						4													鏡 ますみ			
一般	必修	English Expression 2	0107	履修単位	2					2	2													鏡 ますみ			
一般	必修	一般基礎教育 2	1108	履修単位	1					2														富澤 明			
一般	必修	日本語教育 1 (留学生のみ)	1109	履修単位	2							4												太田 慶子			
一般	必修	日本語教育 2 (留学生のみ)	1110	履修単位	2								4											太田 慶子			

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	国語総合 1	
科目基礎情報							
科目番号	0108		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		前期:2 後期:2		
教科書/教材	特に使用しない/常用漢字クリア、国語要覧						
担当教員	豊田 尚子						
到達目標							
1.基礎的な漢字の読み書きができ、語彙能力を高める 2.論理的な文章を読み、情報収集の基本を認識する。 3.文法の基礎を学び、日本語の運用に役立てる。 4.代表的な文学作品について、日本文学史における位置づけを認識する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		国語常識としての基礎的な語彙能力を身に付け、運用できる。		基礎的な語彙能力を身につけることができる。		基礎的な語彙能力が足りない。	
評価項目2		文章のジャンルの違いを理解し、情報収集の基本として、適切に引用・運用できる。		文章のジャンルの違いがあること認識し、指示通りに引用できる。		文章のジャンルの区別もつけられず、正しく引用できない。	
評価項目3		文法用語を用いて、品詞の分類を体系化して説明できる。		文法用語を用いて、品詞の分類を体系化できる。		文法語を正しく覚えず、品詞の概念も体系化できない。	
評価項目4		対象とする文学作品について、文学史の位置づけが説明できる。		対象とする文学作品について、文学史としての特徴をつかむことができる。		対象とする文学作品について、文学史の特徴をとらえることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		低学年では、特に漢字学習などの基礎学力の向上を重視する。手書きの文字については、義務教育のレベルではなく、将来、対外的に一般常識として求められるものを念頭に入れて学習する。それと同時に、豊かな教養人となるべく、文化的知見を蓄積することを目標とする。					
授業の進め方・方法		①毎回の授業時に、漢字テキストからプリント形式で漢字の学習をする。これは、テストではなく、提出物として扱われる。間違いを訂正し、授業内のメモを取ることが要求される。 ②漢字学習においては、予習より復習を重点的に行うこと。 ③漢字学習の授業での進め方と目的、評価の仕方については、授業中にプリントを使って説明するので従うこと。 ④講義は集中して聴き、ノートを取るのとは当然である。それに加えて、メモを取るくせをつけること。 ⑤指示された課題は、目的を理解し、丁寧に取り組むこと。					
注意点		①提出物などの受け渡しは、教員室前のボックスを利用すること。遅れた場合は、日時を記入して速やかに提出すること。基本的には、17時で日付が変わることとする。 ②提出物の評価割合が高い。提出物は、内容の評価・提出方法の確認・注意事項の厳守などで評価するので、提出さえすればよいというものではない。目的・意図をよく考えて仕上げること。 ③ノートチェックやノート提出などはしない。ノートを取るのとは当然だからである。そこに加点はしない。ノートを取り、メモを取らなければテストでは対応できないはずである。 ④漢字のプリント、課題等は、提出物として評価する。目的・内容を把握するためには、授業を集中して聞くのとは基本的態度である。したがって、それらを加味した点として、評価割合の「ポートフォリオ」として算出する。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		テキストの使い方、漢字学習の取り組み方と注意点、提出物に関する諸注意を知る。		
		2週	文章のジャンルと種類①		文章のジャンルと種類を知る。		
		3週	文章のジャンルと種類②		ジャンルの種類によって、読解のポイントが異なることを知る。		
		4週	原稿用紙の使い方①		随筆の資料を用いて、原稿用紙の基本を学ぶ。		
		5週	原稿用紙の使い方②		随筆の資料を用いて、原稿用紙の使い方を確認する。		
		6週	新入生の漢字確認テストの解答と解説		入学前に指示した漢字の確認テストを返却し、正しい答えを再確認する。		
		7週	引用のルールと方法①		評論文の資料を用いて、引用のルールを知る（基本）。		
		8週	前期中間試験		今までの授業内容をふまえて、設問に対して正しく解答する。		
	2ndQ	9週	試験の解答と解説		試験問題を見直し、正しい答えの導き方を確認する。		
		10週	引用のルールと方法②		引用のルールと方法を学習する（発展）。		
		11週	引用のルールと方法③		引用のルールと方法を学習する（応用）。		
		12週	文法①		文法の学習目的と、重要性を知る。		
		13週	文法②		文の成分と、単語の種類を学ぶ。		
		14週	文法③		品詞の種類が認識でき、説明できる。		
		15週	前期期末試験		今までの授業内容をふまえて、設問に対して正しく解答する。		
		16週	試験の解答と解説		試験問題を見直し、正しい答えの導き方を確認する。		
後期	3rdQ	1週	文法④		文節と単語の認識ができる。		
		2週	文法⑤		識別問題に取り組み、識別問題のパターンを知る。		
		3週	近現代文学史①		文学史の学習の目的と、基本用語を学ぶ。		
		4週	近現代文学史②		近現代文学史の全体の流れを知り、それぞれの特徴を学ぶ。		

		5週	近現代文学史③	写実主義の作家と作品を学ぶ。
		6週	近現代文学史④	浪漫主義の作家と作品を学ぶ。
		7週	近現代文学史⑤	自然主義の作家と作品を学ぶ。
		8週	後期中間試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。
	4thQ	9週	試験の解答と解説①	試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。
		10週	試験の解答と解説②	試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。
		11週	故事成語・慣用句・ことわざ	国語常識としての語彙能力を高める。
		12週	難読語	国語常識としての語彙能力を高める。
		13週	古典文学史①	上代の文学史の中で、歌集について学ぶ。
		14週	古典文学史②	上代の文学史の中で、史書について学ぶ。
		15週	後期期末試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。
		16週	試験の解答と解説・年間の授業の間総括	試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	1	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	1	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	1	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	1	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	1	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	1	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	1	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	1	
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	1	
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	1	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	1	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	1	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	1	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	1	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	歴史 1
科目基礎情報						
科目番号	0111		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	高校日本史B（山川出版社）、地歴高等地図（帝国書院）、世界の諸地域NOW（帝国書院）					
担当教員	中平 希					
到達目標						
1. 日本の歴史が、現在の日本国の地域のみならず、古くは東アジア、近代以降は世界の動向と密接に関わるなかで形成されてきたことを学び、国際社会の一員として、諸問題の解決に向けて、歴史的背景を踏まえて多面的に考察するための基礎を身につける。 2. 授業に集中し、必要な知識を身につけることができる。 3. 提出物を期限内に仕上げて提出するスケジュール能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本史の概略をよく理解し、主要な事項について、興味や関心を抱いて、原因や結果に至るまで説明できる。		日本史の流れの概略を理解し、主要な事項について説明できる。		日本史の流れの概略を理解できない。	
評価項目2	小テストの内容をよく理解して、発展問題を自分で作成できる。		小テストの内容を理解し、類似問題を解くことができる。		小テストの内容を理解できない。	
評価項目3	提出物をきちんと仕上げて期限内に提出できる。		提出物を期限内に提出できる。		提出物を期限内に提出できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	朝廷を中心とした古代の律令国家、幕府を中心とした中世の封建社会、欧米の近代国家の制度を取り入れて中央集権化を進めた明治時代を中心に、日本史を概観する。					
授業の進め方・方法	授業は講義形式を中心とする。 小テストをしっかり復習すること。					
注意点	・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起きていることについて広い関心を持つこと。 ・身近なところに地図帳をおき、ニュースに登場する地名を確かめて、頭の中に日本や世界の地図を作ること。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 ・漢字を楷書で書けるように練習すること。 ・成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	歴史学とは何かについて、大まかなイメージを持つ。 ノートの取り方の一例を身につける。		
		2週	律令国家の成立	律令国家の成立について、中国や朝鮮半島との関わりも含めて説明できる。		
		3週	奈良時代	天皇を中心とした朝廷の制度と、国家仏教について説明できる。		
		4週	平安時代	藤原氏の摂関政治と国風文化について説明できる。		
		5週	武士の誕生	院政と武士勢力の台頭について説明できる。		
		6週	平氏と源氏	武士政権の誕生と源平の争いについて説明できる。		
		7週	鎌倉幕府	鎌倉幕府の根幹を支える制度としての守護と地頭について説明できる。 封建制度の概念について説明できる。		
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。		
	2ndQ	9週	解答返却・解説 仏教の変遷	奈良時代の国家仏教や平安時代の天台宗・真言宗から、鎌倉新仏教の成立まで、仏教の変遷を時代背景とあわせて説明できる。		
		10週	室町時代	蒙古襲来による鎌倉幕府の崩壊から、南北朝時代を経て室町幕府が成立したこと、さらに下克上の時代が始まり、戦国時代にいたる流れを説明できる。		
		11週	江戸時代	幕藩体制と江戸時代の外交関係、当時の欧米諸国の世界進出について説明できる。		
		12週	ペリー来航	ロシアの開国要求と江戸幕府の対応について、19世紀アメリカの砲艦外交と日米修好通商条約について説明できる。		
		13週	開国の影響	開国後の日本経済の混乱と、政治的な動揺に対する幕府の対応（安政五年の政変）、その失敗について説明できる。		
		14週	攘夷から倒幕へ	反幕府派の諸藩が攘夷から倒幕へと考え方を変えたこと、薩長同盟と徳川慶喜の大政奉還について説明できる。		
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。		
		16週	解答返却・解説 明治維新と戊辰戦争	明治政府の中央集権化政策について説明できる。		
後期	3rdQ	1週	徴兵令と四民平等	近代的軍隊の創設のために、法的に平等な国民の創出が必要だったことが説明できる。		

		2週	富国強兵	政府の財源確保のための地租改正と殖産興業政策について説明できる。
		3週	文明開化	廃仏毀釈と啓蒙思想の導入、明治政府の教育政策について説明できる。
		4週	岩倉使節団と征韓論	岩倉使節団と条約改正問題、征韓論と明治六年の政変、その後の朝鮮・清国・琉球との関係の変化を説明できる。
		5週	士族反乱の鎮圧	明治維新に対する農民や士族の不満によって反乱が起こったこと、鎮圧後は反政府活動が武力反乱から言論による闘争に移ったことを説明できる。
		6週	自由民権運動・憲法制定・国会開設	大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点、制限選挙がもたらした結果について説明できる。
		7週	東アジアの国際環境	欧米列強の帝国主義政策による植民地獲得競争について説明できる。 朝鮮半島をめぐる日清間の緊張と脱亜論について説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
	4thQ	9週	解答返却・解説 日清戦争	日清戦争の原因と結果、三国干渉の影響について説明できる。
		10週	日清戦争後の政治	政党内閣の出現、政治に影響を持った元老と官僚について説明できる。
		11週	ロシアとの戦い	列強の清国進出と北清事変、日英同盟から日露戦争にかけての経緯について説明できる。
		12週	日露戦争の影響	日本に対する列強の警戒とアジア諸国の日本への期待と失望について説明できる。
		13週	日韓併合と満州への進出	韓国と満州での日本の植民地支配について説明できる。
		14週	第一次世界大戦	大戦の勃発と日本の参戦について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
		16週	解答返却・解説	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	
			公民	諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	前1
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	1	
			地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	基礎数学 1	
科目基礎情報							
科目番号	0114			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	前期:4		
教科書/教材	河東：基礎数学 数理工学社 / 河東：基礎数学問題集 数理工学社						
担当教員	佐波 学						
到達目標							
1. 整式に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 分数式に関する基本的な問題を解くことができる。 3. 無理式に関する基本的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	整式に関する応用的な問題を解くことができる。			整式に関する基本的な問題を解くことができる。		整式に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2	平方根に関する応用的な問題を解くことができる。			平方根に関する基本的な問題を解くことができる。		平方根に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3	分数式に関する応用的な問題を解くことができる。			分数式に関する基本的な問題を解くことができる。		分数式に関する基本的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【担当教員： 佐波 学】 整式・平方根・分数式の扱いについて学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。						
注意点	基礎数学1は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。		
		2週	整式の加減乗		整式の加法・減法・乗法の計算ができる。		
		3週	展開公式		乗法展開公式を利用して整式の展開ができる。		
		4週	因数分解の公式		因数分解の公式を利用して因数分解ができる。		
		5週	整式の除法		整式の除法の計算ができる。		
		6週	因数定理		因数定理を利用した因数分解ができる。		
		7週	最大公約数・最小公倍数		整式の最大公約数と最小公倍数の基本的な計算ができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却・解答 実数		実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。		
		10週	平方根の計算		平方根の基本的な計算ができる。		
		11週	分母の有理化		分母の有理化ができる。		
		12週	分数式の約分と乗除		分数式の約分と乗除の計算ができる。		
		13週	分数式の通分と加減		分数式の通分と加減の計算ができる。		
		14週	繁分数式		繁分数式を簡単にすることができる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解答				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。		2	前2,前3,前5
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。		2	前4,前6
				分数式の加減乗除の計算ができる。		2	前12,前13,前14
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。		2	前9
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。		2	前10,前11
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	基礎数学 2
科目基礎情報					
科目番号	0115		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	後期:4	
教科書/教材	河東 : 基礎数学 数理工学社 / 河東 : 基礎数学問題集 数理工学社				
担当教員	佐波 学				

到達目標

1. 1次及び2次の方程式・不等式に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 高次方程式や分数・無理方程式に関する基本的な問題を解くことができる。
3. 2次関数に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	1次及び2次の方程式・不等式に関する応用的な問題を解くことができる。	1次及び2次の方程式・不等式に関する基本的な問題を解くことができる。	1次及び2次の方程式・不等式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	高次方程式や分数・無理方程式に関する応用的な問題を解くことができる。	高次方程式や分数・無理方程式に関する基本的な問題を解くことができる。	高次方程式や分数・無理方程式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	2次関数に関する応用的な問題を解くことができる。	2次関数に関する基本的な問題を解くことができる。	2次関数に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	【担当教員： 佐波 学】 方程式や不等式に関する基本的な事項と、2次関数のグラフやその簡単な応用について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	基礎数学 2 は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	2次方程式の解の公式	解の公式を利用して2次方程式を解くことができる。
		2週	複素数の演算	複素数の四則演算ができる。
		3週	連立方程式	基本的な連立方程式（1次と2次）を解くことができる。
		4週	1次不等式	基本的な1次不等式を解くことができる。 1元連立1次不等式を解くことができる。
		5週	2次不等式	基本的な2次不等式を解くことができる。
		6週	恒等式 高次方程式	基本的な恒等式の問題を解くことができる。 因数分解を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。
		7週	分数方程式 無理方程式	基本的な分数方程式を解くことができる。【問題集】 基本的な無理方程式を解くことができる。【問題集】
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答 関数とグラフ	関数とグラフの基本事項について理解する。
		10週	2次関数の標準形	平方完成によって2次関数を標準形に直すことができる。
		11週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフをかくことができる。
		12週	2次関数のグラフの方程式への応用	2次方程式への基本的な応用ができる。
		13週	2次関数のグラフの不等式への応用	2次不等式への基本的な応用ができる。
		14週	2次関数の最大値と最小値	グラフを利用して、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	2	後2
				解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	2	後1
				因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	2	後7
				簡単な連立方程式を解くことができる。	2	後3
				無理方程式・分数方程式を解くことができる。	2	後7
				1次不等式や2次不等式を解くことができる。	2	後4
				1元連立1次不等式を解くことができる。	2	後4
				基本的な2次不等式を解くことができる。	2	後5
				恒等式と方程式の違いを区別できる。	2	後6

				2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	2	後10,後11,後14	
				関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。	2	後11,後12	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	基礎数学 3	
科目基礎情報							
科目番号	0116			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	河東：基礎数学 数理工学社 / 河東：基礎数学問題集 数理工学社						
担当教員	佐波 学						
到達目標							
1. 三角比に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 三角関数に関する基本的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三角比に関する応用的な問題を解くことができる。		三角比に関する基本的な問題を解くことができる。		三角比に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2		三角関数に関する応用的な問題を解くことができる。		三角関数に関する基本的な問題を解くことができる。		三角関数に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【担当教員： 佐波 学】 三角比と三角関数に関する基本事項を学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。						
注意点	基礎数学3は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。	
		2週	三角比の定義			三角比の定義を理解し、三平方の定理を利用して直角三角形の頂角の三角比の計算ができる。	
		3週	三角比の相互関係			各種の三角比の相互関係について知る。	
		4週	鈍角の三角比			鈍角の三角比を求めることができる。	
		5週	三角比の近似値			三角関数表を用いて三角比の近似値を求めることができる。	
		6週	正弦定理			正弦定理を用いた三角形への簡単な応用ができる。	
		7週	余弦定理			余弦定理を用いた三角形への簡単な応用ができる。	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却・解答 一般角			一般角の定義を知る。	
		10週	弧度法			角を弧度法で表現することができる。	
		11週	三角関数の定義			三角関数の定義を知る。	
		12週	三角関数と三角比			三角関数が三角比の一般化になっていることを知る。	
		13週	三角関数の値			一般角の三角関数の値を求めることができる。	
		14週	三角関数の基本公式			三角関数の基本公式を知る。	
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解答				
後期	3rdQ	1週	三角関数の相互関係			三角関数の相互関係に関する公式を用いて、三角関数の値の計算ができる。	
		2週	三角関数を含む式の計算			三角関数の基本公式を用いて、三角関数を含む式の計算ができる。	
		3週	三角関数の周期性			三角関数の周期性について知る。	
		4週	三角関数のグラフ（1）			三角関数のグラフの基本形をかくことができる。	
		5週	三角関数のグラフ（2）			伸縮と平行移動された三角関数のグラフをかくことができる。	
		6週	三角関数のグラフの応用			三角関数のグラフを利用して、簡単な三角方程式を解くことができる。	
		7週	中間試験				
		8週	試験返却・解答 加法定理			三角関数の加法定理について知る。	
	4thQ	9週	加法定理の応用（1）			加法定理を用いて三角関数の値の計算ができる。	
		10週	加法定理の応用（2）			加法定理からいろいろな公式が導出されることを知る。	
		11週	2倍角・半角の公式			2倍角・半角の公式を使うことができる。	
		12週	三角関数の合成			三角関数の合成をすることができる。	
		13週	三角方程式			三角関数を含む基本的な方程式を解くことができる。	
		14週	三角不等式			三角関数を含む基本的な不等式を解くことができる。	
		15週	期末試験				

		16週	試験返却・解答				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11	
				角を弧度法で表現することができる。	2	前10	
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5	
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	2	後8,後9,後10,後11,後12	
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	2	後6,後13,後14	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	物理 1
科目基礎情報						
科目番号	0122		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	大日本図書 柴田、勝山、他著 初歩から学ぶ基礎物理学 力学Ⅰ / 数研出版 数研出版編集部編 新課程 リードα物理基礎・物理					
担当教員	富澤 明					
到達目標						
物理学の学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につけること。さらに、物理学は科学技術を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識すること。以上を基本目標とする。 物理1では、(1)物体の運動に関する様々な現象を、物理法則と関連づけて考えることができる、(2)物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる、ことを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	物理学の理論に沿って自然現象を説明できる。		物理学の理論に沿って自然現象を考えることができる。		物理学の理論に沿って自然現象を考えることができない。	
評価項目2	数式の意味を説明できる。		数式の意味を知っている。		数式の意味を知らない。	
評価項目3	物理量を正しく求めることができる。		物理量の求め方を知っている。		物理量の求め方を知らない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物体の運動に関する単元の中で等加速度運動、平面運動、力と運動、運動量保存則について学ぶ。ここでは、「力がつり合っている状態」や「運動方程式」など、自然現象を理解するだけでなく科学技術に応用する上で、極めて基礎的、かつ重要な内容が含まれている。物体の運動に関する基礎的な計算ができるようになることが目標である。					
授業の進め方・方法	自学自習を柱として、授業は、講義と演習、実験・実習から成る。主に講義と演習により、自然への理解を深め、物理学に関する知識の習得を図る。 物理1の学習においては、演習への積極的な取り組みが推奨される。演習の成績は、単元の学習目標への到達度を、学習者が客観的に確認するための一つの目安となる。					
注意点	・授業で課せられる演習問題や課題への解答の提出が求められる。演習問題の解答は満点を取るまで再提出のこと。 ・授業の内容はノートに書き留めておくこと。学んだことを確認するのに役立ちます。疑問があれば、自分で調べ、考えてみよう。解決できなければ、校友と討論したり、あるいは担当教員に質問してください。練習問題を数多く解くのも一つの学習方法です。日々の学習努力が求められます。 ・評価割合の項目別に、以下の評価が行われる。 「試験」は年間に4回実施される定期試験の成績である。 「ポートフォリオ」は演習解答、自己評価報告、課題報告、実験報告等の成績で構成される。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		物理量の単位を使い分けることができる。 速さをSI単位で求めることができる。	
		2週	等速直線運動(1)		平均の速さと瞬間の速さの違いを述べることができる。	
		3週	等速直線運動(2)		時刻と位置の関係を表すことができる。	
		4週	等速直線運動(3)		変位や速度を表すことができる。	
		5週	等加速度直線運動(1)		加速度を求めることができる。	
		6週	等加速度直線運動(2)		物体の位置や速度の計算ができる。	
		7週	等加速度直線運動(3)		道のりなどを求めることができる。	
		8週	中間試験		既習領域の基礎問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	中間試験返却・解答 速度ベクトル(1)		平面内を移動する質点の運動を、位置の変化として表すことができる。 速度ベクトルを表現することができる。	
		10週	速度ベクトル(2)		合成速度を求めることができる。	
		11週	速度ベクトル(3)		相対速度を求めることができる。	
		12週	落体の運動(1)		自由落下や鉛直投射に関する計算ができる。	
		13週	落体の運動(2)		水平投射した物体の位置や速度に関する計算ができる。	
		14週	落体の運動(3)		斜方投射した物体の位置や速度に関する計算ができる。	
		15週	期末試験		既習領域の基礎問題を解くことができる。	
		16週	期末試験返却・解答 力(1)		物体に作用する力を図示することができる。 合力を求めることができる。	
後期	3rdQ	1週	力(2)		つりあいの状態にある力を求めることができる。	
		2週	力(3)		作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。 作用・反作用の関係とつりあいの関係を区別することができる。	
		3週	実験(1)		測定データを適切に処理し、報告書を書くことができる。	
		4週	力の例(1)		重力、弾性力、張力を求めることができる。	
		5週	力の例(2)		垂直抗力、静止摩擦力を求めることができる。	

		6週	力の例(3)	最大摩擦力、動摩擦力を求めることができる。
		7週	実験(2)	力学に関する実験の報告書を書くことができる。
		8週	中間試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
	4thQ	9週	中間試験返却・解答 運動の法則(1)	運動の三法則について説明できる。
		10週	運動の法則(2)	力が作用する物体の運動について、運動方程式を立てて解くことができる。
		11週	運動の法則(3)	互いに力を及ぼしあう物体の運動について、運動方程式を立てて解くことができる。
		12週	運動量(1)	物体の質量と速度から運動量を求めることができる。 運動量の差が力積に等しいことに関する計算ができる。
		13週	運動量(2)	運動量保存則を用いて、2物体の衝突問題を解くことができる。
		14週	運動量(3)	反発係数を用いて、様々な衝突問題を解くことができる。
		15週	期末試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
		16週	期末試験返却・解答 演習(1)	既習領域の応用問題を解くことができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	2	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	2	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	2	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	2	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	2	
				鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	2	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	2	
				物体に作用する力を図示することができる。	2	
				力の合成と分解をすることができる。	2	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	2	
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	2	
				慣性の法則について説明できる。	2	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	2	
				運動方程式を用いた計算ができる。	2	
				静止摩擦力がはたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	2	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	2	
				動摩擦力に関する計算ができる。	2	
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	1	
				安全を確保して、実験を行うことができる。	1	
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	1	
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	1	
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	保健体育 1	
科目基礎情報							
科目番号	0126			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	現代高等保健体育 大修館書店						
担当教員	重永 貴博,山田 英生						
到達目標							
1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。 2.体力テスト、陸上競技及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、バレーボール及び陸上競技の基礎的技術を習得し、ルールを理解してゲームや記録測定を実行できる。 3.保健で取り上げられた各項目の基礎知識について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。			欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。		欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。	
評価項目2	体力テスト、陸上競技及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。バレーボール及び陸上競技の基礎的技術を習得でき、ルールを理解できる。			体力テスト、陸上競技及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。バレーボール及び陸上競技の基礎的技術を概ね習得でき、ルールを理解できる。		体力テスト、陸上競技及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、バレーボール及び陸上競技の基礎的技術がほとんど習得できておらず、ルールも理解できていない。	
評価項目3	「喫煙と飲酒」「医薬品と健康、薬物乱用とドーピング」「心肺蘇生法、日常的な応急手当」「人間と性、性感染症とエイズ」の4項目中3項目以上説明できる。			「喫煙と飲酒」「医薬品と健康、薬物乱用とドーピング」「心肺蘇生法、日常的な応急手当」「人間と性、性感染症とエイズ」の4項目中2項目以上説明できる。		「喫煙と飲酒」「医薬品と健康、薬物乱用とドーピング」「心肺蘇生法、日常的な応急手当」「人間と性、性感染症とエイズ」の4項目中2項目以上説明できない。または、飲酒、喫煙、薬物乱用のいずれかを行なった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	体育実技と保健の講義を行う。 体育実技では、基礎体力の維持増進を図るとともに、各スポーツ競技を楽しむための基礎的技術の習得及びルールを理解してゲームや記録測定を行う。 保健の講義では、日常生活に関連した項目について学ぶ。						
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグラウンドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。 保健の講義は、主にクラスルームにて行う。						
注意点	・評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ・授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ・実技の授業時には、運動に適した服装・シューズ及び着替えを準備すること。保健の授業時には、教科書を準備すること。 ・安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ・日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育・スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持つておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業のガイダンスと体力テスト（屋内種目）		自己の体力水準を認識できる。		
		2週	体力テスト（屋外種目）		自己の体力水準を認識できる。		
		3週	バレーボール（パスの練習）		アンダーハンドパス、オーバーハンドパスのコツをつかむ。		
		4週	バレーボール（スパイクとサーブの練習）		スパイクとサーブの打ち方のコツをつかむ。		
		5週	バレーボール（ルールの確認とゲームの実践①）		バレーボールのルールを理解する。		
		6週	バレーボール（ゲームの実践②）		ゲームの中でサーブを確実にコートに入れることができる。		
		7週	バレーボール（ゲームの実践③）		チームメイトと協力してラリーを続けることができる。		
		8週	バレーボール（ゲームの実践④）		ラリー中にスパイクが打てる。		
	2ndQ	9週	バレーボール（ゲームの実践⑤）		ブロックを含めたチームディフェンスができる。		
		10週	バレーボール（ゲームの実践⑥）		ブロックを含めたチームディフェンスから攻撃を組み立てることができる。		
		11週	球技種目選択（2 種目）		種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。		
		12週	球技種目選択（2 種目）		種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。		
		13週	球技種目選択（2 種目）		種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。		
		14週	球技種目選択（2 種目）		種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。		
		15週	前期総括		前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持てる。		

後期	3rdQ	16週		
		1週	陸上競技(短距離走、ハードル走)	クラウチングスタートの注意点を説明できる。
		2週	陸上競技(ハードル走、持久走)	ハードル間を3歩のリズムで走ることができる。
		3週	陸上競技(砲丸投、持久走)	砲丸投の突き出し動作を実行できる。
		4週	陸上競技(砲丸投、持久走)	ペース配分を考えて持久走を実行できる。
		5週	陸上競技(走高跳)	跳躍方法ごとの踏切脚と助走方向の関係を説明できる。
		6週	陸上競技(走高跳)	リズム感のある助走から踏切を実行できる。
		7週	陸上競技(走幅跳)	跳躍角度を意識した踏切を実行できる。
	4thQ	8週	マラソン大会コース下見	マラソン大会のコースをイメージできる。
		9週	陸上競技(走幅跳)	跳躍角度を意識した踏切を実行できる。
		10週	保健(喫煙と飲酒)	喫煙及び飲酒の人体への影響について説明できる。
		11週	保健(医薬品と健康、薬物乱用とドーピング)	医薬品の正しい使用方法について説明できる。
		12週	保健(日常的な応急手当と心肺蘇生法、AED講習会)	心肺蘇生法の基本的な流れを理解し、AEDを正しく使用できる。
		13週	保健(人間と性、性感染症とエイズ)	エイズの感染経路を理解し、予防法を説明できる。
		14週	保健復習	保健で学んだ事項の要点を整理できる。
		15週	総括	次年度の自己の健康及び体力増進をイメージできる。
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	実技	出欠・態度	合計	
総合評価割合	8	42	50	100	
分野横断的能力	8	42	50	100	

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	書道
科目基礎情報						
科目番号	0129		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	書道 I (東京書籍)					
担当教員	世古口 祐子					
到達目標						
・表現と鑑賞の幅広い活動から書を愛好する心を育てる。 ・文化、伝統の理解を深める。 ・書写能力を育てて自己表現する能力を高める。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	様々な書に関心を持ち、表現・鑑賞ができ、意欲的に作品を仕上げて提出することができる。		様々な書に関心を持ち表現・鑑賞ができ、作品を仕上げて提出することができる。		様々な書に関心をもたず、表現・鑑賞ができない。清書を提出することができない。	
評価項目2	書の良さを感じ取り表現するため、授業前に準備を整え、積極的に練習し添削に来る。		書の良さを感じ取り表現するため、多様な書法の違いを理解し授業中問題なく練習ができる。		積極的に練習することができない。作品を提出することができない。	
評価項目3	臨書することで技能を習得し古典作品の特徴が理解できる。集字をし、作品を仕上げるができる。		古典作品の特徴を理解し、書くことができる。作品を仕上げることができる。		古典作品の特徴を理解せず集中して作品を仕上げない。添削した作品を捨てる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	【担当教員： 世古口 祐子（非常勤講師）】 ・「漢字の書」 さまざまな書風にふれることで、鑑賞、表現の能力を高め、創作に生かしていく。 ・「仮名の書」 色々な書風にふれ、美しさや表現方法を学び、創作に活かしていく。 ・「漢字仮名交じりの書」 身近な題材や自らの思い、感動を語句にし、実用的表現形式に創作する。					
授業の進め方・方法	実技で、作品、態度もしっかり取り組んでいるかを見る。					
注意点	「評価割合」のその他20パーセントについては、持ち物（半紙、墨汁、筆太小、硯、文鎮、下敷き）等の用意がされているかを評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	書へのいざない（1）		書に親しむ（身近な物から）	
		2週	書へのいざない（2）		用具、用材について知る（文房四宝）	
			書へのいざない（2）			
			書へのいざない（2）			
		3週	書へのいざない（3）		姿勢、執筆法を身につける	
		4週	書へのいざない（4）		調和よく書く	
		5週	書へのいざない（5）		書の美しさを知る	
		6週	漢字の書（1）		古典を学ぶ	
	2ndQ	7週	漢字の書（2）		孔子廟同	
		8週	漢字の書（3）		九成宮醴泉銘	
		9週	漢字の書（4）		雁塔聖教序	
		10週	漢字の書（5）		顔氏家廟碑	
		11週	漢字の書（6）		牛欄造像記	
		12週	漢字の書（7）		鄭義下碑	
		13週	行書（1）		集王聖教序	
		14週	行書（2）		蘭亭序	
後期	3rdQ	15週	行書（3）		風信帖	
		16週				
		1週	行書（4）		争坐位文稿	
		2週	隷書（1）		曹全碑	
		3週	隷書（2）		木簡	
		4週	篆刻（1）		印を作ろうNo1	
		5週	篆刻（2）		印を作ろうNo 2	
		6週	篆刻（3）		漢字の書の創作	
	4thQ	7週	仮名（1）		基本用筆を学ぶ	
		8週	仮名（2）		平仮名を書く	
		9週	仮名（3）		高野切	
		10週	漢字仮名交じり書（1）		書きたい言葉を古典から調べる	
		11週	漢字仮名交じり書（2）		書きたい言葉を古典から調べる	
		12週	硬筆（1）		生活の書	
		13週	硬筆（2）		生活の書	

		14週	硬筆（３）	生活の書			
		15週	硬筆（４）	生活の書			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	80	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	80	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	美術
科目基礎情報						
科目番号	0130		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	美・創造へⅠ（日本文教出版）、先輩や作家作品の写真等					
担当教員	中村 利郎					
到達目標						
(1) 課題に興味・関心を持ち、創意工夫し計画的に制作に取り組める。 (2) 独創的で豊かな発想をし、それを表現する方法を理解し、効果的に表現できる。 (3) 作者の心情や表現の工夫を感じ取るとともに、お互いの作品を鑑賞し、いろいろな見方や感じ方を広げることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		実技作品を仕上げて期限内に提出	実技作品を学期内に提出	実技作品の未提出		
評価項目2		作品の内容に独創的な創意工夫がある	作品の内容に創意工夫をしようとしている	作品の内容に創意工夫があまり見られない		
評価項目3		作品鑑賞に積極的に取り組み自分の意見を述べるができる	作品鑑賞にまじめに取り組む	作品鑑賞の態度に前向きさがない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	【担当教員： 中村 利郎（非常勤講師）】 人間にとってアートがいかに必要なものであるかを理解するとともに、自分の生活の中にアートを取り入れる姿勢を養う。					
授業の進め方・方法	・作品の制作に対して、授業中いかに集中と工夫を持って取り組むか、その姿勢を大事にする。 ・個性的なアイディアを発揮できるように助言する。					
注意点	「評価割合」のその他10%は、`取り組む姿勢` とする。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	"美術とは・・・"		
		2週	インスタレーション（1）	クレヨンによる自己表現（材料：クレヨン・アイロン etc）		
		3週	インスタレーション（2）	クレヨンによる自己表現（材料：クレヨン・アイロン etc）		
		4週	インスタレーション（3）	発表会		
		5週	Box Art（1）	Box Art作家ジョセフ・コーネルについて話す。		
		6週	Box Art（2）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		7週	Box Art（3）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		8週	Box Art（4）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
	2ndQ	9週	Box Art（5）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		10週	Box Art（6）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		11週	Box Art（7）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		12週	Box Art（8）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		13週	Box Art（9）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		14週	Box Art（10）	"ある箱"の中に、沢山の自己を作る。（材料：箱etc）		
		15週	Box Art(11)	Box Art の発表会		
		16週				
後期	3rdQ	1週	デザインと芸術の意味	文字の形を話す。		
		2週	絵文字（1）	文字を創造する。		
		3週	絵文字（2）	文字を創造する。		
		4週	絵文字（3）	発表会		
		5週	木版画（1）	日本木版画の歴史		
		6週	木版画（2）	版画による自己表現スケッチ		
		7週	木版画（3）	版画による自己表現スケッチ		
		8週	木版画（4）	版木を彫刻（材料：版木・彫刻刀・絵具・パレン等）		
	4thQ	9週	木版画（5）	版木を彫刻（材料：版木・彫刻刀・絵具・パレン等）		
		10週	木版画（6）	版画制作		
		11週	木版画（7）	発表会		
		12週	ピカソ「ゲルニカ」を学ぶ（1）	ピカソ画ドローイング		
		13週	ピカソ「ゲルニカ」を学ぶ（2）	ピカソ画ドローイング		
		14週	ピカソに学んだ自画像	自画像ドローイング		
		15週	1年間を思い話すこと・・・	学生の作品を鑑賞する。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	90	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	90	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	音楽
科目基礎情報						
科目番号	0131		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	高校音楽 I Music View (教育出版社) Music note (五線譜)					
担当教員	廣 恵					
到達目標						
1. 作品を理解し、知識を深める 2. 作品を演奏、発表する 3. 鑑賞で自分の感想を素直に述べる						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	作品の内容（作者、国、時代など）をよく理解する		作品の内容（作者、国、時代など）をある程度理解する	作品の内容（作者、国、時代など）を理解できない		
評価項目2	演奏（歌唱、指揮、ピアノ伴奏など）に積極的に参加する		演奏（歌唱、指揮、ピアノ伴奏など）に指名されたら参加する	演奏（歌唱、指揮、ピアノ伴奏など）に指名されても拒否する		
評価項目3	レポートを仕上げて期限内に提出		レポートを学期内に提出	レポートの未提出		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	【担当教員： 廣 恵（非常勤講師）】 それぞれの時代、作者、国、時代背景などを理解しながら、作品を演奏し、内容を追及していく。					
授業の進め方・方法	前半は実技でほぼ歌唱。合唱や作曲も行う。 後半は鑑賞。音楽を通じて文化に触れる。					
注意点	配布するレポートは感想を記入して提出する。紛失しないこと。 遅刻、早退、中抜け、忘れ物、その他授業の妨害となる行為は減点対象となる					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス / 鑑賞	自己紹介、授業の説明・セロ弾きのゴーシュ 1		
		2週	歌唱 / 鑑賞	校歌の暗譜 / セロ弾きのゴーシュ 2		
		3週	歌唱 / 鑑賞	校歌の暗譜 / セロ弾きのゴーシュ 3 レポート提出		
		4週	歌唱 / 鑑賞	少年時代 / 海の上のピアニスト 1		
		5週	歌唱 / 鑑賞	少年時代 / 海の上のピアニスト 2		
		6週	歌唱 / 鑑賞	手紙 / 海の上のピアニスト 3		
		7週	歌唱 / 鑑賞	手紙 / 海の上のピアニスト 4 レポート提出		
		8週	歌唱 / 鑑賞	O' Sole Mio / 私らしく レポート提出		
	2ndQ	9週	歌唱 / 鑑賞	O' Sole Mio / ボレロ レポート提出		
		10週	歌唱 / 鑑賞	Tonight / ウエストサイド物語 1		
		11週	歌唱 / 鑑賞	Tonight / ウエストサイド物語 2		
		12週	歌唱 / 鑑賞	Tonight / ウエストサイド物語 3		
		13週	歌唱 / 鑑賞	Tonight / ウエストサイド物語 4		
		14週	作曲 / 鑑賞	沖縄音階、ヨナヌキ音階で作曲 / ウエストサイド物語 4 レポート提出		
		15週	歌唱 / 鑑賞	さとうきび畑 / HELP! 1		
		16週				
後期	3rdQ	1週	歌唱 / 鑑賞	さとうきび畑 / HELP! 2		
		2週	歌唱 / 鑑賞	野ばら / HELP! 3		
		3週	歌唱 / 鑑賞	野ばら / HELP! 4 レポート提出		
		4週	歌唱 / 鑑賞	Oh Happy Day / 雨に唄えば 1		
		5週	歌唱 / 鑑賞	Oh Happy Day / 雨に唄えば 2		
		6週	歌唱 / 鑑賞	Oh Happy Day / 雨に唄えば 3		
		7週	歌唱 / 鑑賞	Oh Happy Day / 雨に唄えば 4		
		8週	歌唱 / 鑑賞	歓喜の歌 / 雨に唄えば 5 レポート提出		
	4thQ	9週	歌唱 / 鑑賞	歓喜の歌 / 交響曲第9番1		
		10週	歌唱 / 鑑賞	歓喜の歌 / 交響曲第9番2		
		11週	歌唱 / 鑑賞	歓喜の歌 / 交響曲第9番3 レポート提出		
		12週	歌唱 / 鑑賞	歓喜の歌 / 交響曲第9番4 レポート提出		
		13週	歌唱 / 鑑賞	故郷 / 美女と野獣 1		

		14週	歌唱 / 鑑賞	この道、赤とんぼ / 美女と野獣 2			
		15週	まとめ	全曲演奏、レポートのまとめ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	20	0	0	80	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	English Communication 1	
科目基礎情報							
科目番号	0132		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年		1		
開設期	前期		週時間数		前期:4		
教科書/教材	ENGLISH NOW English Communiation 1（開隆堂）						
担当教員	鏡 ますみ						
到達目標							
・ 簡単な英語で書かれた比較的短い文章を直読直解できる。 ・ 英語での指示や質問の内容を理解できる。 ・ 基本的な構文を理解し、それを用いて簡単な英文を書ける。 ・ 決まったフレーズを用いて、自己紹介や簡単な会話ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	簡単な英語で書かれた比較的短い文章を正確に直読直解できる。		簡単な英語で書かれた比較的短い文章を直読直解できる。		簡単な英語で書かれた比較的短い文章であっても直読直解できない。		
評価項目2	英語での指示や質問の内容を正確に理解できる。		英語での指示や質問の内容を理解できる。		英語での指示や質問の内容を正しく、または全く理解できない。		
評価項目3	基本的な構文を十分に理解し、それを用いて簡単ではあるが正確な英文を書ける。		基本的な構文を理解し、それを用いて簡単な英文を書ける。		基本的な構文を理解できない。それを用いて簡単な英文も書けない。		
評価項目4	決まったフレーズを用いて、自己紹介や簡単な会話がスムーズにできる。		決まったフレーズを用いて、自己紹介や簡単な会話ができる。		決まったフレーズを用いても、自己紹介や簡単な会話ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
国際性 C3 国際性 C4							
教育方法等							
概要	到達目標を目指して、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語表現の能力、③外国語理解の能力、④言語や文化についての知識、理解などを高める授業を行なう。						
授業の進め方・方法	1 授業は講義と実技が中心となる。 2 各レッスンの扉の写真をしながら、本文の内容について簡単なやり取りをする。 3 新出単語や連語についての発音と意味を確認する。 4 本文の音声を聞き、音読練習を様々なやり方で行なう。 5 扱われている文法事項を確認、理解し、本文理解の助けとする。 6 本文の内容に関する設問に答える。 7 課末の会話表現を利用しながら表現活動を行なう。						
注意点	1 English Communication 1は半期2単位授業である。 2 副教材は『ENGLISH NOW 1 準拠ワークブック』（開隆堂）、『チャンクで英単語Basic』（三省堂）、『チャンクで英単語Basicドリルノート』①②（三省堂）、『アルファフェイバリット英和辞典』（東京書籍）、『読書記録手帳』（コスモピア）である。『チャンクで英単語Basic』の進み方については、授業中で指示する。 3 第一回目の授業時に入学前の課題テキストを提出する。 4 提出物は期日を厳守のこと。そうでない場合は減点対象となる。 5 予習と復習は必須であり、指名された際には答えることができるような姿勢で授業に臨むこと。 6 評価割合の「その他」は出席点を意味し、欠席はマイナス1点、遅刻はマイナス0.5点として減点する。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 入学前課題の提出と確認 Let's Start ①～④			英語授業を受けるにあたって必要な事柄を理解し、準備できる。入学前課題を解答し、提出できる。正解がわかる。 英語の文字、発音、辞書などに慣れる。クラスルームイングリッシュを理解できる。発音やアクセントに注意して聞き分けたり、言ってみたりできる。	
		2週	Lesson 1 Hello, Everyone			自己紹介の表現を理解、活用できる。 be動詞、一般動詞（肯定文）、助動詞（肯定文、否定文）などを復習し、理解を深める。	
		3週	Lesson 1 Hello, Everyone			自分の好きな科目や趣味、家族のことや出身中学のことなどを話題にして、自己紹介する。	
		4週	Lesson 2 Text Message			メールの文章と顔文字、説明や描写、理由を述べる表現を理解する。 be動詞、一般動詞、助動詞（疑問文）、疑問詞を使った疑問文などを復習し、理解を深める。	
		5週	Lesson 2 Text Message Let's Communiatate 1 英語のしくみ①			短いメールを英語で作成し、ペアやグループで確認する。 設定を変え、いろいろなパターンを利用して、電話での特有の表現に慣れる。 『白雪姫』の物語を通して、単語の働きと品詞を理解する。基本的な文構造（SV/SVC）を理解する。	
		6週	Lesson 3 How Men and Women Talk			男女の会話の違いについて理解する。 説明や報告、推論する表現を理解する。	
		7週	Lesson 3 How Men and Women Talk Lesson 4 Sempai and Kohai			動名詞、接続詞を用いた文について復習し、理解を深める。 文化が異なれば発想や表現方法が違うこともあることを知る。 説明したり描写したり、理由を述べたりする表現、話題を発展させる表現を理解する。	

	2ndQ	8週	中間試験	
		9週	試験返却、解答 Lesson 4 Sempai and Kohai	誤答を訂正できる。 SVOC,形式主語のitについて復習し、理解を深める。
		10週	Lesson 4 Sempai and Kohai 英語の仕組み②	文化の違いによる表現の異なるものを確認する。 『白雪姫』の物語を通して、基本的な文構造 (SVO/SVOC)を理解する。
		11週	Lesson 5 Kawaii	「カワイイ」と思うものは国や文化が違えば感じ方は さまざまであることを理解する。 説明したり、考えや意図を伝えたりする表現を理解す る。
		12週	Lesson 5 Kawaii	現在完了形、現在完了進行形を復習し、理解を深める。 各自が「カワイイ」と思うものを取りあげ、話し合う。 いくつかの特徴的な日本文化を取りあげ、外国人が どのように感じるかを推測する。
		13週	Lesson 6 A Friendly Hug	日本とアメリカの挨拶の違いを理解する。 描写する表現、考えや驚く気持ちを伝える表現を理解 する。
		14週	Lesson 6 A Friendly Hug	不定詞の各用法、過去完了形を復習し、理解を深める 。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却、解答	誤答を訂正できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	英語	英語運用の 基礎となる 知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	前1
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することが できる。	1	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読する ことができる。	1	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	1	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語 程度の語彙を新たに習得する。	1	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	5	20	5	100
基礎的能力	60	10	0	5	20	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	English Communication 2
科目基礎情報					
科目番号	0133		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	後期:4	
教科書/教材	ENGLISH NOW English Communiation 1 （開隆堂）				
担当教員	鏡 ますみ				
到達目標					
・ 簡単な英語で書かれた比較的短い文章を直読直解できる。 ・ 英語での指示や質問の内容を理解できる。 ・ 基本的な構文を理解し、それを用いて簡単な英文を書ける。 ・ 決まったフレーズを用いて、自己紹介や簡単な会話ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	簡単な英語で書かれた比較的短い文章を正確に直読直解できる。		簡単な英語で書かれた比較的短い文章を直読直解できる。		簡単な英語で書かれた比較的短い文章であっても直読直解できない。
評価項目2	英語での指示や質問の内容を正確に理解できる。		英語での指示や質問の内容を理解できる。		英語での指示や質問の内容を正しく、または全く理解できない。
評価項目3	基本的な構文を十分に理解し、それを用いて簡単ではあるが正確な英文を書ける。		基本的な構文を理解し、それを用いて簡単な英文を書ける。		基本的な構文を理解できない。それを用いて簡単な英文も書けない。
評価項目4	決まったフレーズを用いて、自己紹介や簡単な会話がスムーズにできる。		決まったフレーズを用いて、自己紹介や簡単な会話ができる。		決まったフレーズを用いても、自己紹介や簡単な会話ができない。
学科の到達目標項目との関係					
国際性 C3 国際性 C4					
教育方法等					
概要	到達目標を目指して、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語表現の能力、③外国語理解の能力、④言語や文化についての知識、理解などを高める授業を行なう。				
授業の進め方・方法	1 授業は講義と実技が中心となる。 2 各レッスンの扉の写真をしながら、本文の内容について簡単なやり取りをする。 3 新出単語や連語についての発音と意味を確認する。 4 本文の音声を聞き、音読練習を様々なやり方で行なう。 5 扱われている文法事項を確認、理解し、本文理解の助けとする。 6 本文の内容に関する設問に答える。 7 課末の会話表現を利用しながら表現活動を行なう。				
注意点	1 English Communication 2 は半期 2 単位授業である。 2 副教材は『ENGLISH NOW 1 準拠ワークブック』（開隆堂）、『チャンクで英単語Basic』（三省堂）、『チャンクで英単語Basicドリルノート』①②（三省堂）、『アルファフェイバリット英和辞典』（東京書籍）である。『チャンクで英単語Basic』の進み方については、授業中で指示する。 3 提出物は期日を厳守のこと。そうでない場合は減点対象となる。 4 予習と復習は必須であり、指名された際には答えることができるような姿勢で授業に臨むこと。 5 評価割合の「その他」は出席点を意味し、欠席はマイナス 1 点、遅刻はマイナス0.5点として減点する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	後期授業についてオリエンテーション Let's Communicate 2	後期の授業概要等を理解する。 買い物でよく使う慣用表現を学ぶ。	
		2週	英語のしくみ③ Reading 1 American or Not American?	『白雪姫』の物語を通して、基本的な文構造（SVOO）を理解する。いろいろな文構造で使われる動詞があることを理解する。 速読によって話の概要をつかむ。	
		3週	Reading 1 American or Not American? つづり字と発音	概要を理解した上で、ものの見方の多様性について話し合う。 つづり字を見て、ある程度、発音の見当がつけられるようになるレベルの基礎を養う。	
		4週	時制を整理しよう Lesson 7 Mago no Mise	時の表し方（過去、現在完了、現在、未来）を確認する。現在完了形、現在完了進行形、過去完了形の違いを理解する。 レストランの特徴、運営に携わる高校生の様子、やりがいなどについて理解する。	
		5週	Lesson 7 Mago no Mise	報告や理由を述べる表現、説明したり、気持ちを伝えたりする表現を理解する。 現在分詞、過去分詞の後置修飾、関係代名詞、関係副詞について学ぶ。	
		6週	Let's Communicatie 3 Lesson 8 Communication in Soccer	道案内の場面でよく使う基本表現を理解する。 サッカーにおけるコミュニケーションの大切さを学ぶ。 気持ち、考えや意図を伝える表現について理解する。	
		7週	Lesson 8 Communication in Soccer	形式目的語it、関係代名詞whatについて学ぶ。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	試験返却、解答 Lesson 9 Mottainai	誤答を訂正できる。 「もったいない」という言葉が、なぜ、どのようにして広まっていったのかを理解する。	

		10週	Lesson 9 Mottainai	「もったいない」という言葉が、なぜ、どのようにして広まっていったのかを理解する。 説明したり理由を述べたりする表現、考えや意図を伝える表現を理解する。
		11週	Lesson 9 Mottainai Reading 2 The Story of Wangari Maathai	受け身、知覚動詞【SVO+動詞の原形、動詞のing形】について学ぶ。 マータイさんが緑化運動を始めたきっかけを読み取る。
		12週	Reading 2 The Story of Wangari Maathai	この運動の後、ケニアの人々の生活はどのようになり、マータイさんの気持ちはどのように変わっていったのかを理解する。
		13週	Let's Talk about Your Wishes 英語のしくみ④	基本的な仮定法過去の文の意味と用法を理解し、それを用いて、自分の願いや考えなどについて表現する。
		14週	後期授業内容の総復習	1年間で扱った文法事項の総復習を行う。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却、解答	誤答を訂正できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	前1
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	1	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	1	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	1	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	1	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	1	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	1	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	5	20	5	100
基礎的能力	60	10	0	5	20	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	一般基礎教育 1	
科目基礎情報							
科目番号	0140		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		前期:2 後期:2		
教科書/教材	大学 学びのことはじめ (ナカニシヤ出版)						
担当教員	富澤 明						
到達目標							
① 高専生として主体的に学習する姿勢を培う。 ② エンジニアとして社会でキャリアを積み上げていくための礎をつくる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	熱心に演習に取り組み、明確な成果を上げることができる。		熱心に演習に取り組むことができる。		演習に出席できない。		
評価項目2	ノートを取りながら授業を受け、自分の将来のことを考えながら、幅広い知識を身に付けることができる。		ノートを取りながら授業を受け、必要な知識を身に付けることができる。		ノートが取れない。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般基礎教育 1 は、キャリア教育と英語基礎演習・数理基礎演習を、5・6 限に隔週でおこなう。各学期に数回、専門学科教員の話、講演会などが実施される。また、本校の教育課程には含まれていない内容についても学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は、教室か視聴覚教室のいずれかでおこなう。実施教室、担当教員についてはその都度確認すること。5 限目に英語基礎演習、6 限目に数理基礎演習を実施する。原則として習熟度別で授業をおこなう。クラス分けについては、ベネッセ・スタディサポート、中間試験、期末試験の結果によって決定する。						
注意点	合格・不合格のみで評価し、評点はつけない。 合格・不合格は出席、課題の提出（期限内に提出しているか、課題の内容）を評価対象とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		一般教育科目、および一般基礎教育 1 の紹介 校舎施設案内		
		2週	キャリア		Office365の使い方の講習		
		3週	キャリア		所属学科教員の話／図書館の使い方／保健室と学生相談室の利用について（3学科で交代）		
		4週	キャリア		スマートデバイスの活用について		
		5週	基礎演習		漢字テスト		
		6週	キャリア		ジェネリック・スキル・アセスメント		
		7週	キャリア		グループ活動の実践		
		8週	基礎演習		英語・数学・理科		
	2ndQ	9週	基礎演習		国語辞典の活用		
		10週	基礎演習		英語・数学・理科		
		11週	基礎演習		英語・数学・理科		
		12週	キャリア		各種検定試験について／消費者教育		
		13週	基礎演習		英語・数学・理科		
		14週	キャリア		ジェネリック・スキル・アセスメント		
		15週	キャリア		ケータイ安心安全講座		
		16週					
後期	3rdQ	1週	キャリア		学生会活動・学校祭について		
		2週	キャリア		こころと体の健康について		
		3週	キャリア		本校卒業生の話、話を聞いた感想を書く		
		4週	基礎演習		英語・数学・理科		
		5週	キャリア		社会意識（マナー）について		
		6週	基礎演習		英語・数学・理科		
		7週	キャリア		外部試験		
		8週	キャリア		外部試験		
	4thQ	9週	キャリア		外部試験		
		10週	キャリア		ジェネリック・スキル・アセスメント		
		11週	キャリア		食と健康		
		12週	基礎演習		英語・数学・理科		
		13週	基礎演習		国語・英語		
		14週	キャリア		学生主事の話		
		15週	キャリア		1 年間の振り返り		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	授業参加	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語総合 2	
科目基礎情報							
科目番号	0097			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	特に使用しない。常用漢字クリア、国語便覧、随時プリント配布						
担当教員	勝田 好洋						
到達目標							
1. 常用漢字、同音異義語、対義語、類義語、慣用句等の語彙力を高める。 2. 論理的な文章を読み、論の展開や論旨を読み解く。 3. 文学作品を鑑賞し、人物・情景・心情等の描写を読み味わう。 4. 古典文学（古文及び漢文）を鑑賞し、時代背景など基礎的知識を習得する。 5. 新聞記事やコラムを読んで、「いま」を考える。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	常用漢字、同音異義語、対義語、慣用句等に強い関心を持ち、語彙力を身につけ、運用することができる。			常用漢字、同音異義語、対義語、慣用句等に関心を持ち、語彙力を身につけることができる。		常用漢字、同音異義語、対義語、類義語、慣用句等に関心を示さず、語彙力が不十分である。	
評価項目2	論理的な文章について、論の展開や論旨を深く読み解くことができる。			論理的な文章について、論の展開や論旨を理解することができる。		論理的な文章について、論の展開や論旨を理解することができない。	
評価項目3	文学的な文章について、人物・情景・心情等の描写を深く読み味わうことができる。			文学的な文章について、人物・情景・心情等の描写を読み味わうことができる。		文学的な文章について、人物・情景・心情等の描写を読み味わうことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【担当教員： 勝田 好洋（非常勤講師）】 高等専門学校といえども、3年次までは高等学校の分野を併せ持つ意味から、国語の総合的分野を学習していくことが大切である。 従って、漢字学習をはじめ、現代文のみならず、古文や漢文についても、基礎的な学習を展開していく。また、日本の将来を担う有為な人間に成長するためには、常に「いま」を考えることが大切である。そういう観点から、様々な視点で考え、視野を広げるために、新聞記事等も教材として扱っていく。						
授業の進め方・方法	①毎回の授業時に、漢字テキスト（『常用漢字クリア』）からプリント形式で漢字学習をする。その際、漢字検定やSPI形式を念頭に置きながら、対義語、類義語、同音異字、慣用句等、語彙の幅を広げていくような学習を展開していく。 ②90分の授業を前半45分と後半45分に二分化し、前半は漢字学習を、後半は各ジャンルの教材を学習していく。 ③前半の漢字学習は語彙力をつけるための学習法を展開し、生き生きとした、活動的な学習の場を目指す。 ④後半の各ジャンルの教材および新聞記事等については、プリントによる投げ込み形式であるが、授業計画に即し、ジャンルに応じた学習を目指す。						
注意点	①授業中は学習に集中して取り組むこと。日々の授業態度が、評価割合の「態度」として位置づけてある。 ②与えられた課題は提出期限を厳守する。提出物については、評価割合の「ポートフォリオ」として位置づけてある。 ③毎回、前回の漢字学習の習熟度を小テストで確認する。その小テストについては、評価割合の「その他」として位置づけてある。 ④前年度までに履修した国語の基礎知識を習得しているものとして学習を継続していく。従って、漢字テキストについては、原則的に前年度学習範囲を引き継ぐ形で進めていく。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスと漢字学習			年間学習のしかたやテキストの使い方、小テストなどの取り組み方、提出物のあり方等を理解できる。	
		2週	漢字学習と評論①			前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握することができる。	
		3週	漢字学習と評論②			前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握することができる。	
		4週	漢字学習と評論③			前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握し、自分の考えや意見をまとめることができる。	
		5週	漢字学習と評論④			前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握し、自分の考えや意見をまとめることができる。	
		6週	漢字学習と評論⑤			前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握し、自分の考えや意見をまとめることができる。	
		7週	漢字学習と新聞記事①			前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。	
		8週	前期中間試験			これまでの学習内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。	

	2ndQ	9週	試験の解答解説と漢字学習	前半は試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認することができ、後半SPIを意識した漢字学習に取り組むことができる。
		10週	漢字学習と古文①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は説話文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる。
		11週	漢字学習と古文②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は説話文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる。
		12週	漢字学習と古文③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は古典文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる。
		13週	漢字学習と古文④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は古典文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる。
		14週	漢字学習と新聞記事②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。
		15週	前期期末試験	これまでの学習内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
		16週	試験の解答解説と漢字学習	前半は試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認することができ、後半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができる。
後期	3rdQ	1週	漢字学習と小説①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は小説に登場する人物の心情を把握することができる。
		2週	漢字学習と小説②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は小説に登場する人物の心情を把握することができる。
		3週	漢字学習と小説③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は小説に登場する人物の心情を把握することができる。
		4週	漢字学習と小説④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は登場人物の心情を把握するとともに、作品の時代背景や作者の文学史的な位置づけを理解できる。
		5週	漢字学習と小説⑤	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は登場人物の心情を把握するとともに、作品の時代背景や作者の文学史的な位置づけを理解できる。
		6週	漢字学習と小説⑥	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は登場人物の心情を把握するとともに、作品の時代背景や作者の文学史的な位置づけを理解できる。
		7週	漢字学習と新聞記事③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。
		8週	後期中間試験	これまでの学習内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
	4thQ	9週	試験の解答解説と漢字学習	前半は試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認することができ、後半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができる。
		10週	漢字学習と漢文①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文学習の基本的な知識を身につけることができる。
		11週	漢字学習と漢文②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文学習の基本的な知識を身につけることができる。
		12週	漢字学習と漢文③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文を通して、自分の生活に密着した故事成語が多くあることを理解する。
		13週	漢字学習と漢文④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文を通して、自分の生活に密着した故事成語が多くあることを理解する。
		14週	漢字学習と新聞記事④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。
		15週	後期期末試験	これまでの学習内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
		16週	試験の解答解説・年間授業の総括	試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認し、年間学習の振り返りを行うことができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	10	20	100
基礎的能力	60	0	0	10	10	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	歴史 2
科目基礎情報						
科目番号	0098		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高等学校世界史A（第一学習社）、1年生の歴史1から継続して地歴高等地図（帝国書院）、世界の諸地域NOW（帝国書院）も使用					
担当教員	中平 希					
到達目標						
1. 世界の歴史を通じて、人間活動と自然環境との関わりから生まれる様々な文化、宗教、各地域の地理的・歴史的特性を、科学技術や産業の発展が人間社会や自然環境に及ぼした影響も含めて学ぶ。 2. 文化の多様性を理解し、各地域の人々の交流や対立によって生み出されてきた様々な問題を、歴史的背景を含めて理解する素養を養う。 3. 提出物を期限内に仕上げて提出するスケジュール能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	授業であつかった世界史の概略をよく理解し、主要な事項について、興味や関心を抱いて、原因や結果に至るまで説明できる。		授業であつかった世界史の概略を理解し、主要な事項について説明できる。		授業であつかった世界史の概略を理解できない。	
評価項目2	小テストの内容をよく理解して、発展問題を自分で作成できる。		小テストの内容を理解し、類似問題を解くことができる。		小テストの内容を理解できない。	
評価項目3	提出物をきちんと仕上げて、期限内に提出できる。		提出物を期限内に提出できる。		提出物を期限内に提出することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ヨーロッパを中心として、他地域にも言及しながら、古代・中世・近代の世界史を概観する。					
授業の進め方・方法	授業は講義形式を中心とする。ポートフォリオとして小テストをおこなう。しっかり復習すること。					
注意点	・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ・身近なところに地図帳を置き、ニュースに登場する地名を確かめて、頭の中に日本や世界の地図を作ること。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古代		紀元前6世紀から紀元前5世紀に、世界で多くの宗教や哲学が生まれていたことを説明できる（仏教、儒教、ギリシア哲学、ユダヤ教）。	
		2週	中国の古代		秦・漢帝国で皇帝が誕生し、儒教が国家の学問に採用され、後2000年にわたる帝国の原型ができたことを説明できる。	
		3週	ローマ帝国（1）		古代ローマ文明の特徴を説明できる。パクス・ロマーナについて説明できる。	
		4週	ローマ帝国（2）		キリスト教の特徴と広がりについて説明できる。	
		5週	イスラームの成立		イスラームの特徴について説明できる。	
		6週	イスラーム帝国		スンナ派とシーア派の分裂、イスラーム帝国の拡大について説明できる。	
		7週	前期中間試験		これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
		8週	答案返却・解説 モンゴル帝国		モンゴル帝国によって、ユーラシア大陸の東西を結ぶ商業ネットワークが成立したことを説明できる。	
	2ndQ	9週	ビザンツ帝国		ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の成立について説明できる。	
		10週	西ヨーロッパの中世世界		教皇と皇帝を中心とした、西ヨーロッパの封建社会について説明できる。	
		11週	遠隔地交易と中世都市		商人と職人の世界である中世都市と、遠隔地交易の発展について説明できる。	
		12週	十字軍		十字軍運動とその失敗について説明できる。	
		13週	14世紀の危機		気候変動と疫病がユーラシア大陸に与えた影響について説明できる。	
		14週	大航海時代		アジアへのあこがれから始まったヨーロッパの「大航海時代」について説明できる。ポルトガルとスペインの海外進出について説明できる。	
		15週	前期期末試験		これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。	
		16週	答案返却・解説 アメリカ大陸の古文明		アステカ王国・インカ帝国の概略について説明できる。	
後期	3rdQ	1週	スペインによる中南米征服		ヨーロッパとアメリカ大陸の出会いによって、双方がどういった影響を受けたのかを説明できる。	
		2週	グローバル化のはじまり		砂糖プランテーションと奴隷貿易と大西洋三角貿易について説明できる。スペインによるフィリピン征服によって、太平洋での貿易が始まったことを説明できる。	

		3週	ルネサンス	中世とルネサンスの考え方の違いが比較できる。 ルネサンスがイタリアで始まり、ヨーロッパ各地に広がった背景を説明できる。
		4週	宗教改革	ルネサンスの宗教改革への影響について説明できる。 ルター・宗教改革が、ドイツ農民戦争につながった経緯を説明できる。 カルヴァン派の予定説が商工業者に受け入れられたことを説明できる。
		5週	対抗宗教改革	カトリック内部の規律強化と海外への布教が、対抗宗教改革の柱だったことを説明できる。 16～17世紀のヨーロッパが宗教戦争の時代だったことを説明できる。
		6週	主権国家の成立	近世の主権国家のなかで、国王による中央集権化が進んだことを説明できる。 16世紀に新たに生まれた主権国家同士の関係が、後の国際関係の基本的な考え方につながったことを説明できる。
		7週	後期中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		8週	答案返却・解説 ハプスブルク家の盛衰	16世紀のハプスブルク帝国の拡大、スペイン帝国の繁栄と弱体化、ネーデルラント独立とイギリスとの抗争について説明できる。
	4thQ	9週	三十年戦争	ドイツ三十年戦争と主権国家体制の成立について説明できる。
		10週	フランス絶対王政	ユグノー戦争の終結と、ルイ14世の絶対王政について説明できる。
		11週	イギリス革命	ジェントルマン階級の成立と、17世紀の革命によって、イギリスで議会主権が定着したことを説明できる。
		12週	アメリカ独立革命とフランス革命	アメリカ独立革命とアメリカ大陸での領土拡大について説明できる。 フランス革命とその後の混乱、ナポレオンの台頭と敗退について説明できる。
		13週	産業革命と労働運動（社会主義）のはじまり	産業革命の背景と展開の概略を説明できる。 産業革命が生活面でもたらした変化について説明できる。 資本主義経済と社会主義思想を比較し、概略を説明できる。
		14週	イギリスの繁栄と世界市場の形成	「世界の工場」イギリスの経済政策について説明できる。
		15週	後期期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		16週	答案返却・解説	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	2	前1	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	2		
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2		
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2		
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2		
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2		
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	1		
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2		
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2		
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	1		
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	1		
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2		
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2		
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2		
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2		
			評価割合				
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	微分積分 1	
科目基礎情報							
科目番号		0099		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	2		
開設期		前期		週時間数	4		
教科書/教材		河東：『基礎数学』『微分積分』数理工学社 / 河東：『基礎数学問題集』『微分積分問題集』数理工学社					
担当教員		佐波 学					
到達目標							
1. 分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 指数と対数に関する基本的な問題を解くことができる。 3. 関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		分数関数・無理関数・逆関数に関する応用的な問題を解くことができる。		分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。		分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2		指数と対数に関する応用的な問題を解くことができる。		指数と対数に関する基本的な問題を解くことができる。		指数と対数に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3		関数の極限に関する応用的な問題を解くことができる。		関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。		関数の極限に関する基本的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		【担当教員： 佐波 学】 分数関数・無理関数・指数関数・対数関数等について、それぞれの関数の性質とグラフについて学ぶ。 いろいろな関数の極限について、基本的な性質と計算方法について学ぶ。					
授業の進め方・方法		授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。					
注意点		微分積分1は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。	
		2週	無理関数			無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	
		3週	分数関数			分数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	
		4週	累乗根と指数の拡張			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	
		5週	指数関数			指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	
		6週	指数方程式			指数を含む基本的な方程式を解くことができる。	
		7週	中間試験				
		8週	試験返却・解答				
	2ndQ	9週	対数の定義と計算			対数の定義を知り、基本的な計算ができる。	
		10週	対数関数			対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	
		11週	対数方程式			対数を含む基本的な方程式を解くことができる。	
		12週	関数の極限			関数の極限の意味を理解し、分数関数や無理関数の基本的な極限計算ができる。	
		13週	片側極限と無限大を含む極限			右側極限・左側極限の意味を理解し、無限大を含む極限についての基本的な計算ができる。	
		14週	指数関数・対数関数・三角関数の極限			指数関数・対数関数・三角関数の基本的な極限計算ができる。	
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解答				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		2	前3
				簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。		2	
				無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		2	前2
				関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。		2	前2,前3
				累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		2	前4
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		2	前5
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。		2	前6
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。		2	前9

				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	2	前10	
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	2	前11	
				簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	2	前12,前13,前14	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微分積分 2
科目基礎情報					
科目番号	0100		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	河東：『微分積分』 数理工学社 / 河東：『微分積分問題集』 数理工学社				
担当教員	佐波 学				

到達目標

1. 関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。
3. 三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	関数の極限に関する応用的な問題を解くことができる。	関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。	関数の極限に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	積・商・合成関数の微分公式を利用した応用的な問題を解くことができる。	積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。	積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する応用的な問題を解くことができる。	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する基本的な問題を解くことができる。	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	【担当教員： 佐波 学】 関数の極限の概要とその値の求め方について学ぶ。 三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の微分について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	(1) 微分積分2は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。 (2) CBTトライアル試験の実施週は、変更されることがある。また、CBTトライアル試験への取り組みや成果については、ポートフォリオとして評価の対象となる。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 微分係数と導関数	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。 微分係数と導関数の定義を知り、簡単な場合に、定義に従って計算することができる。
		2週	積の微分公式	積の導関数の公式を使うことができる。
		3週	商の微分公式	商の導関数の公式を使うことができる。
		4週	合成関数の微分公式	合成関数の導関数を求めることができる。
		5週	三角関数の微分	基本的な三角関数の導関数を求めることができる。 積・商・合成関数を利用して、三角関数の導関数を求めることができる。
		6週	CBTトライアル試験	
		7週	中間試験	
		8週	試験返却・解答	
	4thQ	9週	自然対数	自然対数の定義を知り、値を求めることができる。
		10週	対数関数の微分	対数関数の導関数を求めることができる。
		11週	指数関数の微分	指数関数の導関数を求めることができる。
		12週	逆三角関数の定義	逆三角関数の定義を知り、値を求めることができる。
		13週	逆三角関数の微分 (1)	基本的な逆三角関数の導関数を求めることができる。
		14週	逆三角関数の微分 (2)	積・商・合成関数を利用して、逆三角関数の導関数を求めることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	2	後1
			導関数の定義を理解している。	2	後1
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	2	後2,後3,後7,後11,後14
			合成関数の導関数を求めることができる。	2	後4,後7,後11,後14
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	2	後5,後7,後10,後11
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	2	後12,後13,後14

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	代数・幾何 1	
科目基礎情報							
科目番号	0101			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	河東：『基礎数学』『微分積分』数理工学社 / 河東：『基礎数学問題集』『微分積分問題集』数理工学社						
担当教員	佐波 学						
到達目標							
1. 平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができる。 2. 場合の数に関する基本的な問題を解くことができる。 3. 数列に関する基本的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		平面図形と式に関する応用的な問題を解くことができる。		平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができる。		平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2		場合の数に関する応用的な問題を解くことができる。		場合の数に関する基本的な問題を解くことができる。		場合の数に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3		数列に関する応用的な問題を解くことができる。		数列に関する基本的な問題を解くことができる。		数列に関する基本的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		【担当教員： 佐波 学】 平面図形と式、場合の数、数列に関する基本的な事項を学ぶ。					
授業の進め方・方法		授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。					
注意点		代数幾何1は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。		
		2週	2点間の距離		2点間の距離を求めることができる。		
		3週	内分点と外分点		内分点と外分点の座標を求めることができる。		
		4週	直線の方程式（1）		通る点と傾きから直線の方程式を求めることができる。		
		5週	直線の方程式（2）		2点を通る直線の方程式を求めることができる。		
		6週	2つの直線の平行と垂直 平行・垂直な直線の方程式		2つの直線の平行・垂直関係を傾きの関係として理解できる。 平行な直線や垂直な直線の方程式を求めることができる。		
		7週	中間試験				
		8週	試験返却・解答				
	2ndQ	9週	円の方程式		基本的な円の方程式を求めることができる。		
		10週	中心と半径		円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。		
		11週	円と直線（1）		円と直線の位置関係と連立方程式の解との関係について知る。		
		12週	円と直線（2）		与えられた方程式から円と直線の位置関係が判定できる。		
		13週	円の接線（1）		円の接線の方程式を求めることができる。		
		14週	円の接線（2）		円の接線に関する基本的な問題を解くことができる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解答				
後期	3rdQ	1週	積の法則と和の法則		場合の数の計算における積の法則と和の法則の違いを理解する。		
		2週	順列と組合せ		順列と組合せの違いを理解してする。		
		3週	順列の計算		順列と組合せの違いを理解してする。		
		4週	組合せの計算		順列に関する基本的な計算ができる。		
		5週	二項定理		二項定理の意味を知る。 組合せに関する基本的な計算ができる。		
		6週	二項定理の計算		二項定理を用いた基本的な問題が解ける。		
		7週	中間試験				
		8週	試験返却・解答				

	4thQ	9週	等差数列	等差数列の一般項やその和を求めることができる。
		10週	等比数列	等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	総和記号（1）	総和記号 Σ を用いて数列の和を表現することができる。
		12週	総和記号（2）	総和記号 Σ を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		13週	階差数列	階差数列と元の数列との関係を知る。
		14週	漸化式	漸化式の意味を知る。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	2点間の距離を求めることができる。	2	前2
				内分点の座標を求めることができる。	2	前3
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	2	前4,前5
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	2	前6
				簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	2	前9,前10
				積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	2	後1
				簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	2	後2,後3,後4,後11,後12
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	2	後9,後10
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	2	後11,後12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	物理 2
科目基礎情報						
科目番号	0102		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	大日本図書 柴田、勝山、他著 初歩から学ぶ基礎物理学 力学 I / 大日本図書 柴田、勝山、他著 初歩から学ぶ基礎物理学 熱・波動 / 数研出版 数研出版編集部編 改訂版 リードα物理基礎・物理 / 東京書籍編集部 レッツトライノート物理基礎 力学編					
担当教員	富澤 明					
到達目標						
物理学の学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につけること。さらに、物理学は科学技術を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識すること。以上を基本目標とする。 物理 2 では、(1)物体の運動や波動に関する様々な現象を、物理法則と関連づけて考えることができる、(2)物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる、(3)粒子性と波動性の違いを理解し、波動に関する基礎的な計算をすることができる、ことを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	物理学の理論に沿って自然現象を説明できる。		物理学の理論に沿って自然現象を考えることができる。		物理学の理論に沿って自然現象を考えることができない。	
評価項目2	数式の意味を説明できる。		数式の意味を知っている。		数式の意味を知らない。	
評価項目3	物理に関する応用的な問題を解くことができる。		物理に関する基礎的な問題を解くことができる。		物理に関する問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物体の運動に関する単元の中で力学的エネルギー保存則、等速円運動、単振動、万有引力の法則、および波動に関する単元について学ぶ。「力学的エネルギー保存則」や「単振動」、「音」、「光」など、自然現象を理解するだけでなく科学技術に応用する上で、極めて基礎的、かつ重要な内容が含まれている。物体の運動や波動に関する基礎的な計算ができるようになることが目標である。					
授業の進め方・方法	自学自習を柱として、授業は、講義と演習、実験・実習から成る。主に講義と演習により、自然への理解を深め、物理学に関する知識の習得を図る。 物理 2 の学習においては、演習への積極的な取り組みが推奨される。演習の成績は、単元の学習目標への到達度を、学習者が客観的に確認するための一つの目安となる。					
注意点	・授業で課せられる演習問題や課題への解答の提出が求められる。演習問題の解答は満点を取るまで再提出のこと。 ・授業の内容はノートに書き留めておくこと。学んだことを確認するのに役立ちます。疑問があれば、自分で調べ、考えてみよう。解決できなければ、校友と討論したり、あるいは担当教員に質問してください。練習問題を数多く解くのも一つの学習方法です。日々の学習努力が求められます。 ・評価割合の項目別に、以下の評価が行われる。 「試験」は年間に4回実施される定期試験の成績である。 「ポートフォリオ」は演習解答、自己評価報告、課題報告、実験報告、CBTトライアル試験等の成績で構成される。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	力学的エネルギー(1)		仕事や仕事率を求めることができる。	
		2週	力学的エネルギー(2)		運動エネルギーに関する計算ができる。 重力や弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	
		3週	力学的エネルギー(3)		力学的エネルギー保存則を用いて、様々な物理量の計算に利用できる。	
		4週	等速円運動(1)		等速円運動をする物体の速度、角速度に関する計算ができる。	
		5週	等速円運動(2)		等速円運動をする物体の周期、回転数に関する計算ができる。	
		6週	等速円運動(3)		等速円運動をする物体の加速度、向心力に関する計算ができる。 遠心力などの慣性力を説明することができる。	
		7週	中間試験		既習領域の基礎問題を解くことができる。	
		8週	中間試験返却・解答 単振動(1)		単振動と等速円運動との関係を説明することができる。	
	2ndQ	9週	単振動(2)		周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	
		10週	単振動(3)		単振動における速度、加速度、力の関係を説明できる。	
		11週	単振動(4)		ばね振り子や単振り子の周期を求めることができる。	
		12週	万有引力(1)		万有引力を求めることができる。 地球の重力を求めることができる。	
		13週	万有引力(2)		人工衛星の運動に関する計算ができる。	
		14週	万有引力(3)		万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	
		15週	期末試験		既習領域の基礎問題を解くことができる。	
		16週	期末試験返却・解答 波の伝わり方(1)		波の波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	
後期	3rdQ	1週	波の伝わり方(2)		横波と縦波の違いについて説明できる。 正弦波の式に関する計算をすることができる。	

		2週	波の伝わり方(3)	波形のグラフを描くことができる。
		3週	波の反射と干渉(1)	波の重ね合わせの原理を理解し、合成波形を作図できる。 波の反射の法則について説明できる。
		4週	波の反射と干渉(2)	定常波の振動の特徴を説明できる。 2つの波の干渉によって、互いに強めあう条件と弱めあう条件を述べることができる。
		5週	波の屈折と回折(1)	ホイヘンスの原理によって屈折の法則と回折を説明できる。 屈折の法則に関する計算ができる。
		6週	CBTトライアル試験	
		7週	中間試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
		8週	中間試験返却・解答音(1)	共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。
	4thQ	9週	実験(2)	波に関する実験の報告書を書くことができる。
		10週	音(2)	弦の長さ、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。
		11週	音(3)	気柱の長さ、音速から、閉管、閉管の固有振動数を求めることができる（開口端補正は考えない）。
		12週	音(4)	一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。
		13週	光(1)	自然光と偏光の違いについて説明できる。 波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを理解している。
		14週	光(2)	ヤングの実験や回折格子について説明できる。
		15週	期末試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
		16週	期末試験返却・解答光(3)	波動性と粒子性の違いについて説明できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	力学	仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	前3
			物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
			重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
			弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
			力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
			周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	
			単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	
			等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	
			万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	
			万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
		波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	
			横波と縦波の違いについて説明できる。	3	
			波の重ね合わせの原理について説明できる。	2	
			波の独立性について説明できる。	2	
			2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。	3	
			定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。	3	
			ホイヘンスの原理について説明できる。	2	
			波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。	3	
			弦の長さ、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	3	
			気柱の長さ、音速から、閉管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。	3	
			共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	3	
			一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。	3	
			自然光と偏光の違いについて説明できる。	3	
			光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3	
			波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3	
		物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	2	
			安全を確保して、実験を行うことができる。	2	
			実験報告書を決められた形式で作成できる。	2	
			有効数字を考慮して、データを集計することができる。	2	
			熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	
			波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	

				光に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	
				電磁気に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	
				電子・原子に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	理科総合
科目基礎情報						
科目番号	0103		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新編地学基礎（数研出版）、新編生物基礎（啓林館）、生物図録（数研出版）					
担当教員	廣垣 豊					
到達目標						
自然の事物・現象に関する観察、実験などを通して、「生物とそれを取り巻く地球環境を中心に、自然の事物・現象について理解し、人間と自然とのかかわりについて考え、自然に対する総合的な見方や考え方を養う」ことを基本目標にする。また、生物分野および地学分野と人間生活とのかかわりについて理解する。さらに、自然、環境、科学技術に対する興味・関心を高める教育領域であり、ライフサイエンス、アースサイエンスの立場から、「ものづくり」で必要となる環境への配慮ができることを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地球の惑星としての特徴を説明できる。地球の内部構造を理解し、表層における地学的事象との関係を説明できる。		地球の惑星としての特徴を知っている。地球の内部構造と、表層における地学的事象との関係を知っている。		地球の惑星としての特徴を知らない。地球の内部構造と、表層における地学的事象との関係を知らない。	
評価項目2	地球上の生物が多様であり、かつ共通性があることを理解している。地球上にある様々な生態系の成り立ちについて理解している。		地球上の生物が多様であり、かつ共通性があることを知っている。地球上には様々な生態系があることを知っている。		地球上の生物が多様であり、かつ共通性があることを知らない。地球上にある様々な生態系の成り立ちについて知らない。	
評価項目3	太陽放射エネルギーを原動力とする、大気圏、および水圏での現象を理解し、気象との関係を説明できる。		太陽放射エネルギーを原動力とする、大気圏、および水圏での現象と気象との関係を知っている。		太陽放射エネルギーを原動力とする、大気圏、および水圏での現象と気象との関係を知らない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	人類の生息域である地球の地学的環境と生物環境について学ぶ。さらに、人類の生産活動による地球環境への影響について学ぶ。					
授業の進め方・方法	主に講義によって、授業が進められる。					
注意点	学業成績は、年間4回実施される定期試験、随時実施される課題提出、出席状況等で評価される。 ※評価割合の「ポートフォリオ」は提出物、「その他」は出席状況等とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスを用いて授業の概要、進め方を説明する。 序編 惑星としての地球 1章 太陽系の天体		惑星の特徴について理解し、相違点を説明できる。	
		2週	2章 太陽系の誕生と地球の進化		太陽系の形成過程における物質の分別から性質の異なる惑星が誕生することを理解できる。誕生初期の地球における環境変化とそれに起因する地球の特徴を理解できる。	
		3週	1編 活動する地球 1章 地球の構造		地球の形、大きさをどのように求めればよいかを理解できる。内部層構造の構成物質の違いやその境界面の深度を理解できる。	
		4週	2章 プレーートの運動		震源分布と火山分布からプレート境界を推定することができる。プレート境界の種類と位置を説明することができる。マントル対流とプレートの運動を関連付けて説明することができる。	
		5週	3章 地震と地殻変動		地震とプレートテクトニクスの関係を理解できる。	
		6週	4章 火山		火山噴出物や火山の外観の違いとマグマの性質の関係を説明できる。火成岩を通し、岩石が鉱物より構成されていることを理解できる。	
		7週	前期中間試験			
	2ndQ	8週	2編 移り変わる地球 1章 地層の形成		堆積作用を説明することができ、その結果できる堆積岩の分類ができる。堆積構造を読み取って地層の上下判定を行うことができる。	
		9週	2章 古生物の変遷と地球環境		化石の種類を理解し、相対年代の決定や環境推定を行うことができる。生物がどのように進化してきたのかを理解できる。	
		10週	3編 大気と海洋 1章 地球の熱収支		大気圏の層構造を説明することができる。太陽の放射エネルギー収支によるエネルギーの輸送を理解できる。	
		11週	2章 大気と海水の運動		緯度に応じた大循環のシステムが構築されていることを説明できる。大気と同様に、海水の循環を理解できる。	
		12週	4編 地球の環境 1章 地球環境の科学		地球環境の要素とその相互作用を理解できる。地球温暖化などの環境問題に関してその原因や取ることができる対策などを説明できる。	
		13週	2章 日本の自然環境		日本の環境からもたらされる恵みと災害を把握することができる。	
		14週	5編 宇宙の構成 1章 太陽と恒星		太陽の活動とその原因を理解できる。太陽の進化がその質量によって定められていることを理解できる。	

		15週	2章 宇宙のすがた	銀河系の構造，銀河群，銀河団などの上位構造を説明することができる。元素の合成とビッグバン，恒星での反応について，理解できる。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション 生物の多様性と共通性（１）	地球上の生物の多様性について理解している。
		2週	生物の多様性と共通性（２）	生物の共通性と進化の関係について理解している。
		3週	生物の多様性と共通性（３）	生物に共通する性質について理解している。
		4週	生物の多様性と共通性（４）	生物共通の単位：細胞について理解している。
		5週	生物の多様性と共通性（５）	細胞構造の共通性と多様性について理解している。
		6週	地球上の植生（１）	森林の階層構造を理解し、森林・草原・荒原の違いについて理解している。
		7週	地球上の植生（２） 地球上の植生（３）	植生の遷移について説明でき、そのしくみについて理解している。 世界のバイオームとその分布について理解している。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解説 地球上の植生（４）	日本のバイオームの水平分布、垂直分布について理解している。
		10週	地球上の植生（５）	様々なバイオームと、その成因について理解していること。生態系の成り立ちについて理解している。
		11週	人間活動と地球環境の保全（１）	熱帯林の減少と生物多様性の喪失について理解している。
		12週	人間活動と地球環境の保全（２）	有害物質の生物濃縮について理解している。
		13週	人間活動と地球環境の保全（３）	地球温暖化の問題点、原因と対策について理解している。
		14週	人間活動と地球環境の保全（４）	人間活動と地球環境の保全について考えることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解説 後期末とめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。	2	
				地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	2	
				陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	2	
				地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	2	
				マグマの生成と火山活動を説明できる。	2	
				地震の発生と断層運動について説明できる。	2	
				地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	2	
				プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	2	
				地球上の生物の多様性について説明できる。	2	
				生物の共通性と進化の関係について説明できる。	2	
				生物に共通する性質について説明できる。	2	
				大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	2	
				大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。	2	
				大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	2	
				海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	2	
				森林の階層構造を理解し、森林・草原・荒原の違いについて理解している。	2	
				植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	2	
				世界のバイオームとその分布について説明できる。	2	
				日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	2	
				生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	2	
				生態ピラミッドについて説明できる。	2	
				生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	2	
				熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	2	
				有害物質の生物濃縮について説明できる。	2	
				地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	2	

評価割合

	試験	ポートフォリオ・その他					合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育 2	
科目基礎情報							
科目番号	0104		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	現代高等保健体育 大修館書店						
担当教員	重永 貴博,山田 英生						
到達目標							
1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。 2.体力テスト及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、バドミントン及びサッカーの基礎的技術を習得し、ルールを理解してゲームを実行できる。 3.保健で取り上げられた各項目の基礎知識について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。		欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。		欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。		
評価項目2	体力テスト及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。バドミントン及びサッカーの基礎的技術を習得するとともに、ルールを理解できる。		体力テスト及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。バドミントン及びサッカーの基礎的技術を概ね習得するとともに、ルールを理解できる。		体力テスト及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、バドミントン及びサッカーの基礎的技術がほとんど習得できておらず、ルールも理解できていない。		
評価項目3	「スポーツの技術と戦術」、「効果的な動きのメカニズム」「技能と体力」「体カトレーニング①」「体カトレーニング②」の5項目中4項目以上説明できる。		「スポーツの技術と戦術」、「効果的な動きのメカニズム」「技能と体力」「体カトレーニング①」「体カトレーニング②」の5項目中3項目以上説明できる。		「スポーツの技術と戦術」、「効果的な動きのメカニズム」「技能と体力」「体カトレーニング①」「体カトレーニング②」の5項目中3項目以上説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	体育実技と保健の講義を行う。 体育実技では、基礎体力の維持増進を図るとともに、各スポーツ競技を楽しむための基礎的技術の習得及びルールを理解してゲームや記録測定を行う。 保健の講義では、スポーツの技術やトレーニングに関連した項目について学ぶ。						
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグラウンドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。 保健の講義は、主にクラスルームにて行う。						
注意点	・評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ・授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ・実技の授業時には、運動に適した服装・シューズ及び着替えを準備すること。保健の授業時には、教科書を準備すること。 ・安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ・日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育・スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持つておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	体力テスト(屋外種目)		昨年度の記録を上回る。		
		2週	体力テスト(屋内種目)		昨年度の記録を上回る。		
		3週	バドミントン(グリップ、クリア、ミニゲーム)		正しいグリップで回内・回外動作をできる。		
		4週	バドミントン(クリア、スマッシュ、ミニゲーム)		クリアとスマッシュを打ち分けることができる。		
		5週	バドミントン(ドライブ、ダブルスルール確認)		ドライブでラリーを続けることができる。		
		6週	バドミントン(ダブルスゲーム①)		ダブルスのルールを理解してゲームを実行できる。		
		7週	バドミントン(ダブルスゲーム②)		ダブルスのルールを理解してゲームを実行できる。		
		8週	バドミントン(ダブルスゲーム③)		サーブを確実に相手のサービスコートに打つことができる。		
	2ndQ	9週	バドミントン(ダブルスゲーム④)		サーブを確実に相手のサービスコートに打つことができる。		
		10週	バドミントン(ダブルスゲーム⑤)		サーブレシーブを確実に相手コートに返すことができる。		
		11週	バドミントン(ダブルスゲーム⑥)		サーブレシーブを確実に相手コートに返すことができる。		
		12週	バドミントン(ダブルスゲーム⑦)		サイド・バイ・サイド・フォーメーションを実行できる。		
		13週	バドミントン(ダブルスゲーム⑧)		サイド・バイ・サイド・フォーメーションを実行できる。		
		14週	バドミントン(ダブルスゲーム⑨)		。トップ・アンド・バック・フォーメーションを実行できる。		
		15週	前期総括		前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持つてくる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	サッカー (キックの練習とルールの確認)		インサイドキック、アウトサイドキックでボールを正確に蹴る。 授業におけるサッカーのルールを確認する		

		2週	サッカー（シュートの練習とフォーメーションの確認）	正確にゴールの枠内にシュートができる。 FW,MF,DF、GKのフォーメーションを理解できる。
		3週	サッカー（ゲームの実践①）	パスを繋げることができる。
		4週	サッカー（ゲームの実践②）	オフサイドを理解して攻撃することができる。
		5週	サッカー（ゲームの実践③）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		6週	保健（効果的な動きのメカニズム）	スポーツにおける動きのメカニズムを理解できる。
		7週	サッカー（ゲームの実践④）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		8週	保健（技能と体力）	スポーツを効果的に行うために技能と体力の関係を理解できる。
	4thQ	9週	サッカー（ゲームの実践⑤）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		10週	保健（体力トレーニング①）	体力トレーニングの基礎理論、進め方を理解できる。
		11週	サッカー（ゲームの実践⑥）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		12週	保健（体力トレーニング②）	筋力トレーニング、持久力トレーニング、調整力・柔軟性トレーニングの内容を理解できる。
		13週	サッカー（ゲームの実践⑦）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		14週	サッカー（ゲームの実践⑧）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		15週	総括	次年度の自己の健康及び体力増進をイメージできる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	実技	出欠・態度	合計	
総合評価割合	0	0	50	50	
分野横断的能力	7.5	42.5	50	50	

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	English Communication 4
科目基礎情報					
科目番号	0106		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	ENGLISH NOW English Communiation II（開隆堂）				
担当教員	鏡 ますみ				
到達目標					
・簡単な英語で書かれた身近な事柄についての比較的短い文章を読み、理解し、日本語で要旨を述べることができる。教科書の英文であれば、練習を繰り返せば、間違わずに読むことができる。 ・英語で伝えられた、日常的に使われる程度の指示や質問の内容を理解し、それを受けて何らかの行動や応答に移すことができる。 ・基本的な構文や単語を利用しながら、自分や身の回りのことについてまとまりのある英文を書ける。 ・決まったフレーズや例文を頼りに、自分や身の回りのことについて簡単な会話を行ったり、発表ができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		簡単な英語で書かれた身近な事柄についての比較的短い文章を読み、正確に理解し、日本語で正確に要旨を述べることができる。教科書の英文であれば、正しく流暢に読むことができる。	簡単な英語で書かれた身近な事柄についての比較的短い文章を読み、理解し、日本語で要旨を述べることができる。教科書の英文であれば、練習を繰り返せば、間違わずに読むことができる。	簡単な英語で書かれた身近な事柄についての比較的短い文章であっても、理解し、日本語で要旨を述べることができない。教科書の英文を、間違わずに読むことができない。	
評価項目2		英語で伝えられた、日常的に使われる程度の指示や質問の内容を正確に理解し、それを受けて行動や応答を適切にできる。	英語で伝えられた、日常的に使われる程度の指示や質問の内容を理解し、それを受けて何らかの行動や応答に移すことができる。	英語で伝えられた、日常的に使われる程度の指示や質問の内容を全く理解できない。それを受けて何らかの行動や応答にも移れない。	
評価項目3		基本的な構文や単語を利用しながら、自分や身の回りのことについて文法的に正しく、まとまりのある英文を書ける。	基本的な構文や単語を利用しながら、自分や身の回りのことについてまとまりのある英文を書ける。	基本的な構文や単語を利用しても、自分や身の回りのことについて簡単な英文を書けない。	
表か項目4		決まったフレーズや例文を頼りに、自分や身の回りのことについてやや複雑な会話を行なったり、発表ができる。	決まったフレーズや例文を頼りに、自分や身の回りのことについて簡単な会話を行なったり、発表ができる。	決まったフレーズや例文を頼りにしても、自分や身の回りのことについて簡単な会話や発表ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1 EC3は週4時間2単位の半期授業である。 2 『ENGLISH NOW English Communiation I』で学習した、文法、語彙を中心とした知識をさらに深めるための授業を行なう。 3 教科書に並行して、『チャンクで英単語Basic』から単語テストを毎時間行なう。 4 12月にGTEC for Studentsを受験予定。				
授業の進め方・方法	1 各課の構成に従い、様々な活動を行なう。 2 Warm-UP では題材内容に関するリスニングを行ない、題材に関する興味を喚起する。 3 新出単語の発音と意味の確認をし、文のリズムに注意して英文を音読を繰り返す。 4 Part1の短めの文では、訳読をしながら、質問を通して内容理解を確かにする。 5 Part2の長めの文では、質問を通して内容を確かめながら訳読を進める。 6 Key Point で各課で扱われる文法事項を理解し、Drillでそれを用いて簡単な文章を作ったりやり取りを行なう。 7 Activityでその課で学習した文構造や文法事項を使ってコミュニケーション活動を行なう。 8 ワークブックを利用し、総合的な各課の理解度を確認する。 9 取り扱われている話題を通して、各国の文化とその背景を理解する。				
注意点	1 教材は常に授業に使用できるように手元に置く。 2 予習・復習は必須であり、指名された際に答えることができるような姿勢で授業に臨む。 3 副教材は、『ENGLISH NOW English Communiation II 準拠ワークブック（開隆堂）』、『チャンクで英単語Basic』（三省堂）、『チャンクで英単語Basicドリルノート』①②(三省堂)、『アルファフェイバリット英和辞典』（東京書籍）である。『チャンクで英単語Basic』の進め方については授業中に指示を行なう。 4 評価項目の内、「小テスト」には『チャンクで英単語Basic』の単語テスト、長期休暇中の課題テキストの確認テスト、GTEC for Studentsの得点などが含まれる。「ポートフォリオ」には、ノート、ワークブック、課題などの提出点が含まれる。提出物は期限厳守のこと。遅れて提出した場合は減点となる。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 Personal Space	話す相手との距離の取り方が相手との関係や文化によって違うことを理解している。	
		2週	Lesson 5 Personal Space 英語のしくみ②	比較、seemを含む文について基本的な用法を理解している。 前置詞で始まる表現を名詞の後に置く方法について理解している。	
		3週	Lesson 6 Rakugo Goes to the U.S.	落語を通して、外国人が日本文化の面白いと思う点を読み取ることができる。	
		4週	Lesson 6 Rakugo Goes to the U.S.	make＋目的語＋動詞の原形について基本的な用法を理解している。	
		5週	WORD POWER ③ Let's Communicate ② 乗り換え案内をしよう	副詞や反意語の作り方を通して派生語について理解している。動詞wear、形容詞largeのコロケーションを理解している。 電車の乗換案内に使う慣用表現がわかる。行き先を尋ね、相手の言うことを聞き、確認できる。	
		6週	Lesson 7 Robots across the Globe	日本と外国のロボットについて、グラフや写真との関連を考えながら読み進めることができる。	
		7週	中間試験		
		8週	試験返却・解答	誤答を訂正できる。	

4thQ	9週	Lesson 7 Robots across the Globe	分詞構文の基本的な用法を理解している。
	10週	GTEC (Advanced) 受験 Lesson 8 A Super Pastry Chef	GTECを受験し、自分の英語の実力を確認できる。 辻口博啓さんがパティシエとして世界一になるまでの 様々な苦労と夢を持つことの大切さを理解する。
	11週	Lesson 8 A Super Pastry Chef	仮定法過去の基本的な用法を理解している。
	12週	Lesson 8 A Super Pastry Chef Let's Communicate ③ レストランで注文しよう 英語のしくみ ③	仮定法過去についての理解を深める。 レストランで料理を注文するときを使う基本表現を理 解している。 名詞に説明を追加するために、現在分詞や過去分詞で 始まる表現を名詞の前や後に置く表現について理解を 深める。
	13週	Lesson 9 The Zero Emissins Project	「究極のエコカー作り」の話を通して、身の回りのこ とで環境問題にどのように取り組んでいるか考える。
	14週	Lesson 9 The Zero Emissins Project	助動詞 + be + 過去分詞の基本的な用法を理解している 。
	15週	期末試験	
	16週	試験返却・解答	誤答を訂正できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	英語	英語運用の 基礎となる 知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	2	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	2	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することが できる。	2	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読する ことができる。	2	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語 程度の語彙を新たに習得する。	1	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	1	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を 習得する。	1	
			英語運用能 力の基礎固 め	毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把 握できる。	1	

評価割合

	試験	ポートフォリオ	発表	小テスト	態度		合計
総合評価割合	60	18	4	15	3	0	100
基礎的能力	60	18	4	15	3	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	English Expression 2
科目基礎情報						
科目番号	0107		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Vivid English Expression I（第一学習社）、Hello there! English Conversation（東京書籍）					
担当教員	鏡 ますみ					
到達目標						
1. 教科書などの文章を段落ごとに大意をつかむことができる。 2. 英語での指示や質問の内容を理解し、応答できる。 3. 自分の身の周りのことを簡単な英語で表現できる。 4. 簡単な英語を用いて、自分の考えを表現できる。						
ルーブリック						
評価項目1	教科書などの文章を段落ごとに大意を正しくつかむことができる。		教科書などの文章を段落ごとに大意をつかむことができる。	教科書などの文章を段落ごとに大意をつかむことができない。		
評価項目2	英語での指示や質問の内容を間違いなく理解し、応答できる。		英語での指示や質問の内容を理解し、応答できる。	英語での指示や質問の内容を理解できず、応答もできない。		
評価項目3	自分の身の周りのことを簡単な英語で十分に、正しく表現できる。		自分の身の周りのことを簡単な英語で表現できる。	自分の身の周りのことを簡単な英語であっても表現できない。		
評価項目4	簡単な英語を用いて、自分の考えを十分に、正しく表現できる。		簡単な英語を用いて、自分の考えを表現できる。	簡単な英語を用いても、自分の考えを表現できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	① 英語を通じてさらに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 事実や意見などを多様な面から考察したり、論理の展開や表現の工夫をしながら伝える能力を養う。 ③ 文化の多様性を理解し、異なった文化を尊重する姿勢を育てる。					
授業の進め方・方法	1 週2時間の授業で、VIVID EnglishExpression Iを使用し、教室で主に英文法を学ぶ講義形式の授業と、Hello there! English Conversationを使用し、LL教室で主にリスニングと会話を行う授業を行なう。前者の授業は佃が、後者の授業は鏡が担当する。 2 予習復習をしっかり行い、積極的な授業参加を求める。					
注意点	1 EE2は文法1単位、LL1単位の合計2単位の通年授業である。評価については文法50%、LL50%となり、中間・期末試験においては、各50点満点で同時限に試験を実施する。評価割合は、試験60で、文法とLL共に、発表3、小テスト6、態度2、ポートフォリオ7、その他2とする。 2 副教材としてそれぞれに教科書準拠のワークブック、『グランドセンチュリー英和辞典』（三省堂）を使用する。授業には、テキスト、ワークブック、辞書を必ず持参すること。 3 LL機器の扱いを慎重にすること。 4 評価割合の「その他」は出席点を意味し、欠席はマイナス1点、遅刻はマイナス0.5点として減点する。 5 シラバスではVIVIDは①、Hello thereは②で表す。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション ①Lesson 13 Online Information ②♪I Don't Want to Miss a Thing	①to不定詞の名詞用法、It is ...to ~の表現を用いて文を作ることができる。 ②つながって変化する音に気をつけながら、課題をこなし楽曲を味わう。		
		2週	①Lesson 13 Online Information, Lesson 14 Out of Fashion ②Lesson 7 Talking about Our Town	①「情報」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。to不定詞の形容詞用法を用いて文をつくること ②町（場所）の位置について（距離・方角）描写することができる。		
		3週	①Lesson 14 Out of Fashion ②Lesson 7 Talking about Our Town	①「ファッション」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 英文を聞き取り、情報を整理して質問に答える。 ②町（場所）の特徴を描写することができる。		
		4週	①For Communication 3 Lesson 15 My Father is a Good Cook ②Lesson 7 Talking about Our Town	①「希望する・願望する」表現を理解し、文をつくったり、コミュニケーション活動ができる。 ②相手からより詳しい情報を引き出すことができる。		
		5週	①Lesson 15 My Father is a Good Cook ②住んでいる町、生まれた町を紹介しよう	①to不定詞の副詞用法を用いて文を作ることができる。「家事・生活」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②自分の町や故郷を紹介するスピーチができる。		
		6週	①Lesson 16 School Festival ②住んでいる町、生まれた町を紹介しよう	①SVO+to不定詞、疑問詞+to不定詞の表現を用いて文をつくること ②自分の町や故郷を紹介するスピーチを聞き取り、話の流れと概要をつかむことができる。		
		7週	①Lesson 16 School Festival ②リスニングテスト	①「ホームステイ」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②第1週から6週までに学んだことを主としたリスニングテストを解答できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	試験返却、解答 ①Lesson 17 Doing a Homestay ②Listening Tips 2	誤答を訂正できる。 ①動名詞を用いて文を作ることができる。 ②三種類の聞き取りにくい音を含む単語を聞き分けることができる。		

		10週	①Lesson 17 Doing a Homestay ②Lesson 8 Traditional Culture	①「ホームステイ」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②予定について尋ねたり話したりできる。
		11週	①Lesson 18 Our National Sport ②Lesson 8 Traditional Culture	①形容詞用法の分詞を用いて文をつくることができる。 ②習慣や伝統について尋ねたり、説明したりすることができる。 英語にない文化的概念を説明することができる。
		12週	①Lesson 18 Our National Sport ②Lesson 8 Traditional Culture	①「日本文化」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②習慣や伝統に関するまとまった英文を聞き取り、話の流れと概要をつかむことができる。
		13週	①For Communication 4 ②Listen Up 4	①「申し出る」表現を理解し、文をつくることができる。「レストラン」の場面をふまえて「申し出る」表現を使ってコミュニケーション活動ができる。 ②英語のプレゼンを聞いて、概要をつかみ理解し、質問に回答することができる。
		14週	①前期の総復習 ②リスニングテスト	①これまで学習した事柄について復習し、理解を深める。 ②第9週から13週までに学んだことを主としたリスニングテストを解答できる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却、解答	誤答を訂正できる。
後期	3rdQ	1週	①Lesson 19 Let's Clean the River! ②Sakura's Adventure Episode 4	①比較（原級、比較級）の表現を用いて文を作ることができる。 ②道を見つけることができる。
		2週	①Lesson 19 Let's Clean the River! Lesson 20 Events in My Town ②Sakura's Adventure Episode 4	①「ボランティア」の場面の表現をふまえてコミュニケーション活動ができる。 最上級、最上級の意味を表す比較表現を用いて文を作ることができる。 ②道案内をする際に必要な表現を理解し、使うことができる。お礼を言うことができる。
		3週	①Lesson 20 Events in My Town ②日本の名所を紹介してみよう	①英文を聞き取り、情報を整理して質問に答えることができる。「地域の行事」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②英語で日本の名所を紹介する原稿を完成させることができる。
		4週	①Lesson 21 I Have a Foreign Friend ②日本の名所を紹介してみよう	①主格、目的格の関係代名詞を用いて文をつくることができる。 ②英語で日本の名所の1つを紹介するスピーチができる。
		5週	①Lesson 21 I Have a Foreign Friend ②♪We Are the World	①英文を聞き取り、情報を整理して質問に答えることができる。「異文化」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②聞こえにくくなる音、消えてしまう音に注意しながら楽曲を味わう。
		6週	①Lesson 22 My Future Dream ②Lesson 9 Equal Roles	①関係代名詞（所有格、that）を用いて文を作ることができる。 ②自分の感情や感想を、感情を込めて表現することができる。自分の価値観をはっきりと表現することができる。
		7週	①Lesson 22 My Future Dream ②リスニングテスト	①英文を聞き取り、情報を整理して質問に答えることができる。「将来の夢」の場面をふまえてコミュニケーション活動ができる。 ②第1週から6週までに学んだことを主としたリスニングテストを解答できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却、解答 ①For Communication 5 ②Lesson 9 Equal Roles	誤答を訂正できる。 ①「理由を述べる」表現を理解し、文を作ることができる。 ②友達とあるテーマについて意見を交換することができる。
		10週	①For Communication 5 ②Lesson 9 Equal Roles Game 3	①「手紙、メール」の場面をふまえて「理由を述べる」表現を使ってコミュニケーション活動ができる。 ②グラフを参照しながらアンケート調査の結果を正確に聞き取ることができる。職業に関する英語表現に親しみながらゲームを楽しむことができる。
		11週	①Further Activities ②Lesson 10 Helping Each Other	①読んだり聞いたりした内容についてまとめたり、自分の意見をまとめたりできる。 ②推測した考えを表現できる。自分の主張をはっきりと述べることができる。
		12週	①Further Activities ②Lesson 10 Helping Each Other	①つながりを表す語句に注意して英文を聞いたり読んだりすることができる。 パラグラフの構成について理解することができる。 ②返事プラスワンで質問に答えることができる。グループで話合った内容をまとめて、発表することができる。国際的・社会的に貢献した人に関するスピーチを聞き取り、話の流れと概要をつかむことができる。
		13週	①文法の整理 ②Listen Up 5	①学習した文型、文法事項を適切に用いて表現することができる。 ②2種の会話を聞きながら概要を理解し、質問に答えることができる。

		14週	①文法の整理 ②リスニングテスト	①学習した文型、文法事項を適切に用いて表現することができる。 ②第9週から13週までに学んだことを主としたリスニングテストを解答できる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却、解答	誤答を訂正できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	2	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	2	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	1	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	1	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	

評価割合

	試験	発表	小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	6	12	4	14	4	100
基礎的能力	60	6	12	4	14	4	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	一般基礎教育 2	
科目基礎情報							
科目番号	1108			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	前期:2		
教科書/教材	大学 学びのことはじめ (ナカニシヤ出版)						
担当教員	富澤 明						
到達目標							
① 高専生として主体的に学習する姿勢を培う。 ② エンジニアとして社会でキャリアを積み上げていくための礎をつくる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	熱心に演習に取り組み、明確な成果を上げることができる。			熱心に演習に取り組むことができる。		演習に出席できない。	
評価項目2	ノートを取りながら授業を受け、自分の将来のことを考えながら、幅広い知識を身に付けることができる。			ノートを取りながら授業を受け、必要な知識を身に付けることができる。		ノートが取れない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般基礎教育 2 ではキャリア教育と地理・数学・物理基礎演習を行う。キャリア教育では、演習や実習、講義のほか、専門学科教員の話、講演会なども予定されている。						
授業の進め方・方法	授業は、主に教室または視聴覚教室行う。実施教室や担当教員についてはその都度連絡する。						
注意点	合格・不合格のみで評価し、評点はつけない。 合格・不合格は出席や課題の提出によって決定する。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	講義：所属学科教員の話／一般基礎 9 教育 2 紹介		2 年生における取り組み目標を確認する。		
		2週	基礎演習		地理・数学・物理		
		3週	基礎演習		地理・数学・物理		
		4週	演習：新聞を読もう／地球温暖化問題		新聞の読み方を学ぶ。／パリ協定について理解を深める。		
		5週	演習：スマートデバイスの活用		グループ学習を通じて、有効な活用方法や使用上の注意点について理解を深める。		
		6週	基礎演習		地理・数学・物理		
		7週	演習：選挙		選挙権の行使について理解を深める。		
	2ndQ	8週	実習：クリーンアップ作戦		資源ゴミの分別回収を実践する。		
		9週	講義：労働法		労働法に関する講演会を聴講する。		
		10週	基礎演習		地理・数学・物理		
		11週	演習：世界情勢Ⅰ		現在の世界情勢について理解を深める。		
		12週	演習：世界情勢Ⅱ		現在の世界情勢について理解を深める。		
		13週	基礎演習		地理・数学・物理		
		14週	講義：デートDV		DV に関する講演会を聴講する。		
		15週	基礎演習		地理・数学・物理		
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	日本語教育 1（留学生のみ）	
科目基礎情報							
科目番号		1109		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		4	
教科書/教材		教材は 適宜配布。通年で読む本は、『科学者は戦争で何をしたか』 益川俊英著 集英社新書。					
担当教員		太田 慶子					
到達目標							
1. 新聞やニュース、映画、アニメなどを読んだり視聴したりすることで、より深く日本語および日本社会への理解ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		論理的な文章やや複雑な新聞の論説などを読んで理解でき、自分の意見や主張が言える。		論理的な文章や やや複雑な新聞の論説などを読んで、概ね内容が理解でき、感想や意見が言える。		論理的な文章や やや複雑な新聞の論説などの 内容や構成が理解できない。	
評価項目2		日常生活に必要な語彙や表現が獲得できている。		日常生活に必要な語彙や表現がある程度 獲得できている。		日常生活に必要な語彙や表現が、かなり脱落している。	
評価項目3		学校での会話だけでなく、他の日本人とのコミュニケーションも円滑にできる。		学校での会話はほぼ困らないが、学外でのコミュニケーションにはストラテジーが必要。		学内での会話でも 聞き取れなかったり、自分の意思が伝達できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		留学生の日本語は、幅広いテーマの文章や ニュース、ドラマなどを 読んだり視聴することにより、基本的には語彙や表現を獲得し、その蓄積によって自分の考えや主張などを日本語で算出することができるようになる。					
授業の進め方・方法		①前期・後期ともに、「中間試験」「期末試験」をほぼ同等とみなして成績を算出する。 ②評価割合の「ポートフォリオ」の20は、基本的に、通読する規定の書籍を読んでレジュメを作成に対するものである。 ③評価割合の「発表」は、②でのレジュメに沿って、担当した章あるいは節のまとめとさらに発展させて発表できたかどうかを評価するものである。					
注意点		1.「ポートフォリオ」は、演習で読むテキストのレジュメの提出である。 2. 「発表」は、レジュメを基に、クラスで内容を発表する。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の進め方や 本人の要望などを話し合う			自己紹介と教師との意思疎通ができる。	
		2週	1. ライティング1課 2. 新聞教材を読む 3. 演習			作文の基本を復習する。新聞を読んで理解する。益川教授の著書を読む。	
		3週	1. ライティング2課 2. 新聞教材を読む 3. 演習			情報を文章にする。	
		4週	1. ライティング3課 2. 新聞等教材を読む 3. 演習			状況を説明し、意見を述べる。	
		5週	1. ライティング4課 2. ニュースを聞く 3. 演習			段落を作り、文章の構成を考える。	
		6週	1. ライティング5課 2. ニュースを聞く 3. 演習			体験したことを報告するための文章を作成する。	
		7週	前期中間試験			学習した項目の理解と日本語を使って情報や意見を文章化する。	
		8週	1. 中間試験の解説 2. ライティング6課 3. 演習			テーマに沿った意見文を書く。	
	2ndQ	9週	1. ライティング7課 2. ニュースを聞く・話す 3. 演習			自分をアピールする分を書く。	
		10週	1. ライティング8課 2. ニュースを聞く・話す 3. 演習			レポートで使われる表現を学ぶ。	
		11週	1. ライティング9課 2. 『センと千尋の神隠し』視聴① 3. 演習			引用文の練習。	
		12週	1. ライティング10課 2. 『センと千尋の神隠し』② 3. 演習			資料の活用の仕方を学ぶ。	
		13週	1. レポートのテーマを決める 2. 『センと千尋の神隠し』③ 3. 演習			生の日本語を聴き取り、鑑賞する。	
		14週	1. レポートの構成を考える 2. 『センと千尋の神隠し』④ 3. 演習			生の日本語を聴き取り、鑑賞する。	
		15週	前期期末試験			学習した項目の理解と日本語を使って情報や意見を文章化する。	
		16週	試験の解答と解説			間違った箇所の理解と後期の授業についての説明	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1		
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	1		
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	1		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1		

				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	1	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	1	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	1	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	1	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	20	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	日本語教育 2 (留学生のみ)	
科目基礎情報							
科目番号	1110			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	教材は 適宜配布。教科書は 前期に続き『科学者は戦争で何をしたか』						
担当教員	太田 慶子						
到達目標							
1. 日本事情を扱った教材を読み、視聴し、理解を深め 自分の意見や主張が言える。 2. 日本語能力試験N1に合格できる力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章やや複雑な新聞の論説などを読んで理解でき、自分の意見や主張が言える。			論理的な文章や やや複雑な新聞の論説などを読んで、概ね内容が理解でき、感想や意見が言える。		論理的な文章や やや複雑な新聞の論説などの 内容や構成が理解できない。	
評価項目2	テーマに沿ったレポートが作成できる。			テーマに沿ってまとめた文章が作成できる。		段落構成を含め、まとめた文章が書けない。	
評価項目3	パワーポイントを使って、実際に発表できる。質疑応答に対処できる。			作成した文章を発表できる。質問に対して適切な応答ができる。		説明や意見などの発表が、日本語を使ってできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本語能力試験N1の合格のために、語彙・文法・読解・聴解の力をつける。同時に、レポート作成や 日本事情への理解を深め、日常生活だけではなく より高度なテーマについても議論したり、意見を交わせたりできるようにする。						
授業の進め方・方法	1. 基本的には、授業の前半を 日本語能力試験N1対策に当てる。 2. 後半では、前期に引き続き 益川教授の『科学者は戦争で何をしたか』を読み、まとめる。 3. 前期で取り上げたレポートの構成に沿って、レポートを書いていく。						
注意点	1. 「ポートフォリオ」は、演習で読むテキストのレジユメの提出である。2. 「発表」は作成したレポートをパワーポイントを使って実際に発表する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1. 夏休みの体験を発表する。2. 演習		自分の体験を相手に伝える。相手とそれを共有する。		
		2週	1. 前期で決めたテーマに沿ってレポート作成の準備をする。3. 演習		レポートの大きな流れを考える。メモを取る。		
		3週	1. レポート作成の準備2. N1対策 3. 演習		資料を集める。		
		4週	1. レポート作成の準備をする。2. N1対策 3. 演習		資料を集める。		
		5週	1. レポート作成の準備をする。2. N1対策 3. 演習		資料の内容を検討する。		
		6週	1. レポート作成の準備をする。2. N1対策 3. 演習		資料を基に、自分の立場を明確化する。		
		7週	後期中間試験		学習したことがよく理解でき、問題にも適切に解答できる。		
		8週	1.後期中間試験の解説 2. N1対策 3. 演習		試験での間違いを理解する。		
	4thQ	9週	1. レポート作成の準備をする。2. N1対策 3. 演習		資料を基に自分の意見をまとめる。		
		10週	1. レポート作成の準備をする。2. N1対策 3. 演習		レポートの構成を考える。		
		11週	1. レポート作成準備 2. 演習 3. 録画を視聴する		レポートの構成に沿って、アウトラインを書く。		
		12週	1. レポートを書く 2. パワーポイン作成		レポートの作成		
		13週	1. レポートを書く 2. パワーポイン作成		レポートの作成		
		14週	1. レポートを書く 2. パワーポイン作成		レポートの作成		
		15週	後期期末試験		今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。		
		16週	1. 期末試験の解説 2. レポートの発表		実際にレポートをPPを使って発表する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2		
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2		
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	2		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2		
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2		
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2		
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2		
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2		
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2		

				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	20	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0